

事業に関する中期的な計画に対する当期の実施状況（令和2年4月1日から令和7年3月31日までの間）

中期目標	中期計画
<p>【目次】</p> <p>（前文）大学の基本的な目標</p> <p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標</p> <p>（2）教育の実施体制等に関する目標</p> <p>（3）学生への支援に関する目標</p> <p>（4）入学者選抜に関する目標</p> <p>II 研究に関する目標</p> <p>（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標</p> <p>（2）研究実施体制等に関する目標</p> <p>III 診療に関する目標</p> <p>IV 社会との連携や社会貢献に関する目標</p> <p>V 国際化に関する目標</p> <p>VI-1 組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標</p> <p>（1）組織運営の改善に関する目標</p> <p>（2）事務等の効率化・合理化に関する目標</p> <p>VI-2 外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標</p> <p>VI-3 評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標</p> <p>VI-4 施設設備の整備・活用等に関する目標</p> <p>VI-5 法令遵守に関する目標</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画</p> <p>（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための計画</p> <p>（2）教育の実施体制等に関する目標を達成するための計画</p> <p>（3）学生への支援に関する目標を達成するための計画</p> <p>（4）入学者選抜に関する目標を達成するための計画</p> <p>II 研究に関する目標を達成するための計画</p> <p>（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための計画</p> <p>（2）研究実施体制等に関する目標を達成するための計画</p> <p>III 診療に関する目標を達成するための計画</p> <p>IV 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための計画</p> <p>V 国際化に関する目標を達成するための計画</p> <p>VI-1 組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための計画</p> <p>（1）組織運営の改善に関する目標を達成するための計画</p> <p>（2）事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための計画</p> <p>VI-2 外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標を達成するための計画</p> <p>VI-3 評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための計画</p> <p>VI-4 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための計画</p> <p>VI-5 法令遵守に関する目標を達成するための計画</p>

中期目標	中期計画
<p><b>(前文) 大学の基本的な目標</b>            順天堂大学の基本的な目標</p> <p>本学は、学是「仁」、理念「不断前進」に則り、出身校、国籍、性による差別なく優秀な人材を求め活躍の機会を与えるという「三無主義」の学風を掲げ、6学部3大学院研究科6附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として「教育」「研究」「診療・実践」を柱に、グローバル社会における医療やスポーツ、人々の健康を支える人材の育成・輩出と国際レベルでの社会貢献に取り組む。</p> <p>これらを実現するために中期目標・中期計画において次の事項を重点目標とする。</p> <p>(教育) 確かな学問体系に立脚し、学際的に新たな学問領域を探索しながら、幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、未来を切り拓く創造力、国際性と指導力を備え、生涯に亘り高い水準で能動的に学び続ける人材を育成する。特に、本学の掲げる理念・目的やビジョンを実現するため、教育の内部質保証システムを構築し、恒常的・継続的に教育の質の保証と向上に取り組む。</p> <p>(研究) 国内外から卓越した研究者が集い成長していくことのできる学術研究環境を拡充し、世界的水準での魅力ある研究や新しい学問分野・融合研究の発展及び創成を促進する。イノベーション創出を目指して、次世代に向けた研究を推進するとともに、企業・大学との寄付講座・共同研究講座の開設を促進し、研究成果、知的成果を広く社会に還元する。</p> <p>(診療) 医学部附属6病院合計で総病床数3,443床を有する日本最大規模の強固なネットワークを形成し、先進医療、地域医療、救急医療、周産期医療、高齢者医療、精神医療、がん治療、新規医薬品・医療材料・医療機器の開発等、国民の医療ニーズに幅広く対応する高い専門性を発展させつつ、総合力に秀でた医育機関として、病診連携・病病連携を強化し、国際レベルでの拠点病院としての機能を果たしていく。医療の更なる質的向上を達成し、患者中心の安心・安全な医療を充実させるととも</p>	

中期目標	中期計画
<p>に、臨床研究実施体制を強化し、医師主導治験や他施設との共同臨床研究を推進する。</p> <p>(社会貢献) 地域社会や産業界等との幅広い連携活動のもと、社会的な役割やニーズに対応した「教育」「研究」「診療・実践」を推進し、その成果を積極的に情報発信するとともに、社会・地域に還元する。</p> <p>(国際) 国際的な「教育」「研究」「診療・実践」のネットワークを拡充することにより、世界的研究・教育拠点としての機能を強化し、その発展をリードできる人材の育成を図るとともに、知的財産を社会に還元する。</p>	

## I 教育

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p><b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</b></p> <p><b>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標</b></p> <p>○教育課程、教育方針に関する基本方針</p> <p><b>【学士課程】</b></p> <p>1) ディプロマ・ポリシー等を踏まえ、学生がグローバルな視野のもと、自律的な学習能力及び実践力を有するように育成するため、専門的基礎知識と総合的判断力を有機的に養うことを可能とする教育内容及び方法を整備・改善し、学ぶ意欲を刺激する国際通用性の高い学士課程教育を実施する。</p>	<p><b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画</b></p> <p><b>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>○教育課程、教育方針に関する基本計画</p> <p><b>【学士課程】</b></p> <p>1) 学部ごとに学士としての到達目標を明確にし、学生が学位取得に至るプロセスを自覚できる体系的なカリキュラムの充実を図る。</p>	<p><b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p><b>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>○教育課程、教育方針に関する実施状況</p> <p><b>【学士課程】</b></p> <p>(医) ディプロマ・ポリシー（以下「DP」という）とカリキュラムとの関連性については、シラバス内に「医学部カリキュラムマップ」を掲載して確認できるようにしている。またDPに基づいて制定した医学部コンピテンシーの達成度を評価するため、各カリキュラム（授業科目）とコンピテンシーの関係を達成レベル表として明示している。令和4年度に「医学部カリキュラムツリー」を策定し、令和5年度教育要項に掲載した。</p> <p>(スポーツ健康) 1学科6コース制の導入に伴い、DPの見直しを実施し、「学修要覧」にカリキュラムツリー等を明示して学生へのカリキュラム体系の周知を図っている。また、DPに基づいて制定したコンピテンシーの達成度調査を実施している。</p> <p>(医療看護) 看護学生が卒業時に身につける能力をDPに5つ掲げ、それらを達成するために必要な能力を10分類、48項目のコンピテンシーとして設定している。</p> <p>(保健看護) 令和4(2022)年度から新カリキュラムを施行している。看護学生が卒業時に身につける能力をディプロマ・ポリシーとして7項目、それらを達成するために必要な能力をコンピ</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>2) 幅広い教養を涵養することを基本とし、その上に専門的能力を育成するために、人間性、社会性、国際性、専門性に配慮した教育内容を充実する。</p>	<p>テンシーとして11項目設定している。</p> <p>(国際教養) 授業科目に適切な番号を付し分類したナンバリングにより、学修の段階や順序等を表して教育課程の体系を学生へ明示している。シラバスにナンバリングを明示し「教育課程概要(授業科目一覧)」と照合して履修(授業科目選択)可能となるよう実践している。</p> <p>(保健医療) 学部設置認可申請時に組まれた体系的なカリキュラムにより教育を実践し、学科ごとにコンピテンシーを設定している。</p> <p>(医療科学) 学部設置認可申請時に組まれた体系的なカリキュラムにより教育を実践し、学科ごとにコンピテンシーを設定している。</p> <p>(医) 「知性と教養、感性溢れる医師」を育成するための教育として「医療プロフェッショナリズム入門」「医療入門」「医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム」「医療体験実習」等の授業科目を設定している。</p> <p>(スポーツ健康) 「一般教養科目」「専門基礎科目」「専門展開科目」及び「専門科目」に区分し、それぞれの教育が有機的に連動して段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成している。</p> <p>(医療看護) ディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を「人間と教養」「人間の健康」「看護の理論と方法」「医療看護の統合と発展」の4つの科目群に編成し、それぞれを学年進行とともに段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成している。</p> <p>(保健看護) 「人間と教養」「人間の健康」「看護の理論と方法」「保健看護の統合と発展」の4つの科目群に編成し、それぞれを段階的に身に付けられるカリキュラムを編成している。</p> <p>(国際教養) 「グローバル市民の育成」という教育目標に沿ったカリキュラム構成により、国際的な教養に加え、「グローバル社会」「異文化コミュニケーション」「グローバルヘルスサービス」の3領域からなる、文化を越えて活躍できる専門性を身に付けるカリキュラムを編成している。</p> <p>(保健医療) 人間や社会に対する基本的知識を修得できるよう、1年次に「基礎分野」科目を配置している。</p> <p>(医療科学) 人間や社会、専門分野に対する基本的知識を修得できるよう、1年次に「基礎分野」と「専門基礎分野」科目を配置している。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>3) 自律的な学習能力及び実践力を育成するために、アクティブラーニングやICTの活用等による双方向型の教育方法及びインターンシップ等の体験型の教育方法を強化・充実する。</p> <p>4) 国際化を推進するために、TOEFL評価による英語力の強化を図る。</p>	<p>(医) 一方通行となりがちなオンデマンド動画配信による授業に双方向性を持たせるべく、学習管理システム manaba 上で質問の受付や質問に対する回答を掲載し、学生間で情報共有できるようにしている。また令和4年度においては全開講科目のうち68.97%でアクティブラーニングを取り入れている。なお、臨床医学の系統講義では、基礎的知識の修得はオンデマンド動画配信授業にて行い、対面授業では Meet the Professor やケースプレゼンテーション等のアクティブラーニングを取り入れた新しい授業形式を令和4年度から取り入れた。</p> <p>(スポーツ健康) 全科目のうち約7割の授業でアクティブラーニングを実施している。また、ほとんどの授業でICTを活用した双方向型の授業を取り入れている。</p> <p>(医療看護) 全開講科目の約6割でアクティブラーニングを取り入れている。オンラインによる双方向型の授業、オンデマンドによる繰り返し視聴による国家試験対策授業を実施している。</p> <p>(保健看護) 自律的な学習能力及び実践力を育成するために、アクティブラーニングやICTの活用等による双方向型の教育方法を強化・充実している。</p> <p>(国際教養) アクティブラーニングやクリッカー機能アプリを用いた双方向型の教育方法を実践している。授業科目「フィールドワーク」で実務経験を有する教員による職業選択とインターンシップを開講し、講義、学内キャリア支援セミナー受講、インターンシップ参加を機能的に融合したキャリア教育を実践している。</p> <p>(保健医療) 全科目の4割にあたる授業でアクティブラーニングを実施している。</p> <p>(医療科学) 自律的な学習能力及び実践力を育成するために、アクティブラーニングやICTの活用等による双方向型の教育方法を強化・充実している。</p> <p>(医) 1年生全員に年間2回TOEFL ITP 学内受験を実施し、英語力の強化、見える化を図っている。5年前(平成30(2018)年度)と令和4(2022)年度の比較では、第1回(入学時)の平均点は7点上昇し、第2回(12月)の平均点は6点上昇している。また年2回開催される7学部合同英語教育連絡協議会にて、各学部のTOEFL教育の特徴やスコア向上のための工夫について、情報交換を行っている。</p> <p>(スポーツ健康) TOEFL評価を活用した英語力強化を推進するた</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>5) 学習の活性化を促進するために、教材、機材、教育環境等の整備、充実及び開発を図る。</p>	<p>め、1年生全員と希望する上級生が年間2回 TOEFL 学内受験を実施して英語力の強化を図っている。また、英語学習のサポート教材として全学的に e-Learning を導入した。これにより1年生の受験者の平均点が30点上昇した。</p> <p>(医療看護) 1年生全員に年間2回 TOEFL 学内受験を実施し、英語力の強化を図っている。2回目では平均点が21点上昇し、英語力向上の実績となっている。</p> <p>(保健看護) 国際化を推進するために、1年生全員に TOEFL 学内受験を年2回実施し、英語力の強化を図っている。2回目では平均点が24点上昇し、英語力向上を認めた。</p> <p>(国際教養) 1年生全員に年間2回 TOEFL 学内受験を実施し、英語力の強化を図っている。1年生は TOEFL ITP を4月と12月に実施し教育・学習効果を測り、2年生は TOEFL ITP を12月に実施し1年次からの成績の伸びを測った。1年生の12月(2回目)は4月(1回目)よりも平均点が34点上昇した。</p> <p>(保健医療) 1年生を対象に、4月及び12月に TOEFL 試験を実施した。12月実施回は4月と比較して平均点が33点上昇し、学生の英語力向上につながった。</p> <p>(医療科学) 1年生を対象に、4月及び12月に TOEFL 試験を実施した。さらに、他の学年生にも TOEFL 試験を受験させ英語力強化を実施している。</p> <p>(医) 講座別ではなく、臓器別・病理病態別の統合講義が開始されて以降、独自の資料集を充実させている。学生からの要望を踏まえ、オンデマンド動画配信の充実を推進するため、専用の動画サーバーを整備している。また、電子教材による医学教育支援サービス iSmart を導入し、医学書院が出版する標準医学シリーズを中心とした32タイトルの教科書を eテキストとして利用できる環境を整備し、令和4年度1年次の基礎医学入門から使用を開始した。</p> <p>(スポーツ健康) 2号館の空調設備を全面的に更新、また2号館21番22番教室について内装の改修、什器と AVICT 機器の更新を実施し、学修環境を改善した。</p> <p>(医療看護) オンライン授業(オンデマンド)環境の親和性の向上および消費電力削減を推進するため、各教室の設備をアナログ環境からデジタル環境への更新を行っている。令和4年度よりシミュレーション教育研究センターが開設され、高機能患者シミュレーターを用いた授業やモバイルヘルス・メタバースを使った授業に対応できるよう環境が整備された。全学的に導入</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>6) 学部等の教育目標の特性に応じ、履修状況、資格の取得状況及び卒業後の進路等の定量的・定性的指標において高い水準を維持する。</p>	<p>したA L Cの e-Learning は学生の自主学修として利用している。</p> <p>(保健看護) 学習の活性化を促進するために、継続的に視聴覚教材や機材の検証、A V機器、教育環境等の整備・充実を図っている。</p> <p>(国際教養) ハイフレックス型授業を推進するための機材、環境等の整備、充実を図っている。</p> <p>(保健医療) 国家試験への取組として、4年生専用の勉強部屋を整備した。4年生全員分の個人学修スペースを確保し、集中して国家試験対策に取り組めるよう環境を整えている。</p> <p>(医療科学) 学習の活性化を促進するために、継続的に視聴覚教材や機材の検証、A V機器、教育環境等の整備・充実を図っている。</p> <p>(医) 標準修業年限内での卒業率(ストレート卒業率)は、令和5年3月卒業者96.4%、令和4年3月卒業者97.7%、令和3年3月卒業者96.9%である。医師国家試験合格率(既卒者含む)は、第117回(令和5年3月発表)100.0%、第116回(令和4年3月発表)96.4%、第115回(令和3年3月発表)96.2%である。ストレート卒業率、医師国家試験合格率共に高い水準を維持している。</p> <p>(スポーツ健康) 令和4年度卒業生のうち、中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)234名、特別支援学校教諭一種免許状49名、養護教諭一種免許状14名が免許状を取得、教員採用試験には47名(補欠含む)が合格し、教職関係への就職者数は高い水準を維持している。また、精神保健福祉士国家試験には2名が現役で合格をしている。なお、企業就職希望者247名中245名が内定を取得し、高い水準を維持している。</p> <p>(医療看護) 看護師、保健師、助産師の資格取得状況については、単位所得状況と国家試験受験申請をもって把握している。附属6病院への就職率約90%を維持している。国家試験合格率(令和4年度)は看護師100%、保健師98.5%、助産師100%と高水準である。</p> <p>(保健看護) 国家試験WGを中心に学生への学習指導を強化し、看護師国家試験(合格率100%)、保健師国家試験(合格率95.3%)において高い水準を維持している。</p> <p>(国際教養学部) 令和5年3月卒業者(第5期生)の企業・公務就職率は98.2%で、第1期生からの5年間平均は97.7%と高水準を維持している。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>【大学院課程】</p> <p>2) 本学のディプロマ・ポリシー等を踏まえ、世界に通じる研究・開発能力を有する人材として、国際社会で力強く活躍できるように教育内容及び方法を整備・改善し、体系的な教育を実施する。</p>	<p>7) 「教職課程センター」の機能の充実を図り、教職課程コアカリキュラムを活用した教職課程の質保証を踏まえた教員養成課程の拡充を目指す。</p> <p>【大学院課程】</p> <p>8) 大学院の各課程における到達目標に応じ、学位取得に至るプロセスを明確にした体系的なカリキュラムを充実する。また卓越した研究者が集い成長していくため、学術環境の拡充を図り、大学間連携を積極的に推進する。</p>	<p>(保健医療) 令和4年度においては本学部1期生が国家試験を受験し、理学療法士国家試験の合格率は100% (116名合格)、診療放射線技師国家試験の合格率は98.2% (112名合格) であり、高い水準を記録した。</p> <p>(大学) 教職課程センター運営委員会 (3月24日) を開催した。教育職員免許法施行規則改正が令和4年4月に改正され、教職課程自己点検評価の義務化への対応状況を検証した。教職課程の充実を図るために両課程によるFD・SD研修会を開催した。(①R5.1.27、②R5.3.6)。</p> <p>(スポーツ健康) 教職委員会や進路相談室が中心となり、教員を目指す学生に対する支援を実施した。その結果、正規教員、常勤、非常勤講師併せて69名が現役で教員になることとなった。</p> <p>(国際教養) 教職課程指導室の整備と高等学校長経験者を客員教授として任用し、教職課程履修者の指導体制の充実を図っている。教員就職者は、公立学校5名 (うち既卒者1名)、私立学校1名、公立学校臨時的任用2名 (うち既卒者1名) の計8名が学校教員となった。</p> <p>【大学院課程】</p> <p>(医学研究科) 博士課程カリキュラムは、コアプログラム (基礎教育、実践教育、レクチャーシリーズ)、専門プログラム (専門教育、専門研究) にて構成し、体系的なカリキュラムとなっている。修士課程カリキュラムは、基礎教育科目、専門教育科目、特論科目、研究指導科目にて編成し、それぞれを段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成している。学位取得に至るプロセスはカリキュラム概略図としてシラバス内で明示している。</p> <p>(スポーツ健康科学研究科) 博士前期課程のカリキュラムは、入学後の半年間で、基礎科目を集中的に開講する構成となっており、修士論文作成にあたり必要な基礎知識の修得、情報検索等を短期集中・能動的に学ぶことにより、以後の各自の研究を無理なく進めることが可能になるように体系的に編成している。博士後期課程では、特別研究、特別講義、特別演習、特論を通じて、専門研究の深化と総合的なスポーツ健康科学の確立、実践的展開を意図した独創的で高度な教育プログラムを実現すること可能になるように体系的に編成している。</p> <p>(医療看護学研究科) カリキュラムを共通科目、専門科目、演</p>



中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>3) 本学の多様な学術的研究を背景とし、先端的な専門性の高い知識を修得でき、高度な専門的能力と独創的な研究能力を兼ね備えられるように専攻分野の特性に応じた教育成果の向上を図る。</p>	<p>9) 創造性豊かな優れた研究・開発能力と高度な専門的知識・技能に加えて社会全体を俯瞰する広い視野を涵養するために、精深な理論教育及び実践教育を実施し、研究上の倫理教育の強化に向けて組織的に取り組む。</p> <p>10) 時代の動向と社会の要請に対応するために、国際的に通用する新たな学問領域を踏まえた学際的教育を実施する。</p> <p>11) 教育目標の特性に応じ、学位取得状況及び修了後の進路等の</p>	<p>習・研究に分けて編成し、それぞれを段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成している。教育要項にDPと各授業科目との関連を明示し、学位取得に至るプロセスを明確にしている。</p> <p>(医学研究科) 医学研究科における理論教育及び実践教育については、博士課程ではコアプログラム（基礎教育、実践教育、レクチャーシリーズ）、修士課程では基礎教育科目、専門教育科目にて実施している。研究上の倫理教育の強化のため、APRIN e-learning プログラム（eAPRIN）を導入している。大学院低学年コースは博士課程2年次、修士課程1年次までに受講を必須としており、大学院高学年コースは博士課程・修士課程とも修了時までには受講を必須、修了要件としている。</p> <p>(スポーツ健康科学研究科) 研究倫理教育の重要性に鑑み、全大学院生を対象に、入学後3カ月以内に研究倫理教育プログラム（独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の「研究倫理eラーニングコース」もしくは一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）の「eラーニングプログラム」のいずれか）の受講と修了を義務付けている。全大学院生が受講を完了している。</p> <p>(医療看護学研究科) 看護学研究方法論や看護倫理特論、看護理論特論、演習等において理論教育及び実践教育を実施している。APRIN e-learning プログラムを導入しており、倫理審査申請にあたっては事前の受講を必須とする等、研究倫理に関する教育を推進している。</p> <p>(医学研究科) 博士課程にて研究進捗状況の評価として実施される3年次ポスターセッションでは、ポスター・発表ともに英語で実施し、学位論文は、査読のある国際的な学術誌に投稿・掲載される独創的研究に基づく著作（原著論文）としている。</p> <p>(スポーツ健康科学研究科) 博士前期課程において「スポーツ国際文化論」「国際交流プラクティカム」「スポーツ健康科学英語特別講義」「スポーツロジ実践英語」等の科目を置き、国際性を養うとともに、英語力や研究成果の海外向け発信力の強化を目指した学際的教育を実施している。</p> <p>(医療看護学研究科) 国際保健論、グローバルメディカルコミュニケーション、国際コミュニケーション等の科目を配置し、国際性を涵養する学際的教育を実施している。</p> <p>(医学研究科) 早期修了含む、標準修業年限内での修了率（スト</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>○教育の成果・効果の検証</p> <p>4) 教育課程の質保証の観点から多様な教育の成果・効果の検証を行う。</p>	<p>定量的・定性的指標において高い水準を維持する。</p> <p>○教育の成果・効果の検証に関する計画</p> <p>12) 学生の理解度と自律的学習能力の向上という観点から、全学的な体制のもとで教育の達成状況を検証・評価する適切なシステムを構築する。</p>	<p>レート修了率) は、令和5年3月修了者：博士課程 82.7%、修士課程 98.7%、令和4年3月修了者：博士課程 88.2%、修士課程 95.3%、令和3年3月修了者：博士課程 88.8%、修士課程 95.1%であり、高い水準を維持している。博士課程においては修了者の学位論文が査読のある学術雑誌に掲載受理されているかどうかを定期的に確認している。令和5年2月までの状況として、令和4年3月修了者 89/158名、令和3年3月修了者 119/155名、令和2年3月修了者 116/128名の学位論文が掲載受理されており、修了後も学術雑誌への掲載受理に向けた指導を継続している。</p> <p>(スポーツ健康科学研究科) 学位取得状況及び修了後の進路等の定量的・定性的指標による評価を実施した。令和4年度は、博士前期課程 60名、博士後期課程 14名が学位を取得した。</p> <p>(医療看護学研究科) 修了時及び修了後の調査を行い、定量的・定性的指標による評価を行っている。令和4年度の専門看護師(CNS)認定試験においては令和3年度CNSコース修了者6名中5名(累計75名)が合格した。</p> <p>○教育の成果・効果の検証に関する実施状況</p> <p>(医) カリキュラム評価委員会にて教育の達成状況を検証・評価している。DPに基づいて設定された医学部コンピテンシーと各カリキュラム(授業科目)の関係を達成レベル表として明示している。学生に対しては、コンピテンシー達成度の自己評価として「学生によるカリキュラム評価」を実施している。科目責任者が集計結果を分析し、改善案等をカリキュラム評価委員会に報告している。</p> <p>(スポーツ健康) 学修成果の評価に関する新たな施策として、DPおよび、企業等が大学生に期待する能力を含む社会ニーズを反映させたコンピテンシーを定め、学生による達成度の自己評価を行う仕組みを整え、実施した。今後、カリキュラム委員会を中心に具体的な検証・評価方法等について、検討を進めていく。</p> <p>(医療看護) 学修成果の評価について、その目的や達成すべき質的水準及び具体的な評価の実施方法等について、アセスメント・ポリシーを定め、適切に評価を実施している。</p> <p>(保健看護) アセスメント・プランを定めて適切に評価を実施している。一例として新学期に外部テストを用いた基礎学力テストを全学年に実施し、学生の理解度を測り各学年における学習内容の達成状況を検証・評価し指導に活用している。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>13) PDCAサイクルに基づく教育の質向上を図るため、内部質保証体制を整備し、授業アンケート、学生の意見や学修状況、学修成果の状況、卒業後の状況に関するデータを把握し、恒常的に教育改革の達成度の検証及び改善を行う。</p>	<p>(国際教養) DPに対応するコンピテンシーの検証として在学生による自己評価を実施し、カリキュラム評価委員会で集計結果を検証した。カリキュラム評価委員会での検証結果を教授会で報告し全教員で共有する流れを構築した。</p> <p>(保健医療) カリキュラム評価委員会において、学生及び教員を対象としたカリキュラム評価アンケートをそれぞれ実施し、教育課程についての検証を行っている。</p> <p>(医療科学) カリキュラム評価委員会において、学生及び教員を対象としたカリキュラム評価アンケートをそれぞれ実施し、教育課程についての検証を行う予定である。</p> <p>(医) カリキュラム評価アンケート結果や学生の意見をカリキュラム評価委員会に報告し、カリキュラム改革に活用している。カリキュラム評価委員会におけるカリキュラム点検を実施し、提言事項をカリキュラム委員会にフィードバックしている。</p> <p>(スポーツ健康) 毎授業において授業評価を行っているほか、学生生活実態調査等を行い、教育改革の達成度の検証及び改善を行っている。また、DPに基づいて制定したコンピテンシーの達成度調査を実施している。</p> <p>(医療看護) 毎授業において授業評価を行っているほか、学生生活実態調査、各種委員会に学生代表者が参加して意見聴取、コンピテンシーの到達度評価、卒業後アンケート調査等を行い、教員へ結果をフィードバックして恒常的に教育改革の達成度の検証及び改善を行っている。</p> <p>(保健看護) 毎授業における授業評価、学生生活実態調査、学生への意見聴取、コンピテンシーの到達度評価等を行い、恒常的に教育改革の達成度の検証及び改善を行っている。卒業生の就職先からの外部評価を取り入れている。</p> <p>(国際教養) 授業評価、学生生活実態調査、卒業時アンケート等を行い、その結果を関係委員会へフィードバックし、恒常的に教育改革の検証及び改善を行っている。</p> <p>(保健医療) 毎授業において授業評価アンケートを実施し、授業担当教員にフィードバックを行っている。授業評価アンケート結果は教務委員会で確認され、授業担当教員の指導のために活用している。</p> <p>(医療科学) 毎授業において授業評価アンケートを実施し、授業担当教員にフィードバックを行っている。授業評価アンケート結果は教務委員会で確認され、授業担当教員の指導のために活用している。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>○成績評価に関する基本方針</p> <p>5) 教育課程に基づく教育の成果について厳正・適正な成績評価を行う。</p>	<p>○成績評価に関する計画</p> <p>14) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）によるアセスメント・ポリシーに基づき、教育課程に係る教育成果について成績評価基準を定め、到達度に力点を置いた厳格な成績評価を実施する。</p> <p>15) 筆記試験による成績の他に実習・演習科目による成績を組み合わせ、学生の知識、思考力、技術、意欲等を多面的、総合的に評価する。</p>	<p>○成績評価に関する実施状況</p> <p>(医) 各科目のシラバスに到達目標、成績評価方法、成績評価基準等を示している。</p> <p>(スポーツ健康) 成績評価基準を学修要覧に明記しているほか、各科目のシラバスに到達目標、成績評価方法、成績評価基準等を示し、厳格な成績評価を実施している。</p> <p>(医療看護) 教育課程全体の成績評価基準を履修要項に明記しているほか、各科目のシラバスに到達目標、成績評価方法、成績評価基準等を示し、厳格な成績評価を実施している。</p> <p>(保健看護) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）によるアセスメント・プランに基づき、到達度に力点を置いた厳格な成績評価を実施している。</p> <p>(国際教養) 成績評価基準を「履修の手引き」に明記し、各授業科目のシラバスに学修の到達目標、成績評価方法・成績評価基準、ディプロマ・ポリシーとの関連を示し、厳格な成績評価を実施している。</p> <p>(保健医療) アセスメント・ポリシーに基づき、前期・後期それぞれで厳格な成績評価を行っている。</p> <p>(医療科学) 各科目のシラバスに到達目標、成績評価方法、成績評価基準等を示している。</p> <p>(医) 講義と実習から構成される授業科目については、筆記試験の評価に実習等の評価も加味した多面的・総合的な評価を行っている。</p> <p>(スポーツ健康) 小テストや課題レポート等による成績の他に実技試験等の成績を組み合わせ、学生の知識、思考力、技術、意欲等を多面的、総合的に評価している。</p> <p>(医療看護) 筆記試験による成績の他に実習・演習科目による成績を組み合わせ、学生の知識、思考力、技術、意欲等を多面的、総合的に評価している。</p> <p>(保健看護) 筆記試験の他に実習・演習科目を中心にルーブリックを用いて客観的指標に基づいて評価を行っている。</p> <p>(国際教養) 筆記試験による成績の他、演習科目でのプレゼンテーション、ファシリテーションの実践、外国語科目でのコミュニケーション能力、ゼミナールでの専門性の追及・研究及びその成果物（卒業論文）等を組み合わせ、多面的、総合的な評価を行っている。</p> <p>(保健医療) 実習・演習科目においては、ルーブリック等を用い</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>16) GPAによる成績に基づき学生の学習意欲の向上を図るとともに、適切な個別指導を行い、国際通用性の確保を図る。</p> <p><b>(2) 教育の実施体制等に関する目標</b></p> <p>6) 世界的研究・教育拠点にふさわしい教育を実施するために、教育組織及び実施体制を整備・強化するとともに、社会的要請等を考慮して適切な入学定員を設定し、国際標準化を視野に入れた教育体制・教育環境を整備充実させる。</p> <p>7) 学士課程の拡充を図るために新学部開設の構想について検討を進め実現を図る。</p>	<p>16) GPAによる成績に基づき学生の学習意欲の向上を図るとともに、適切な個別指導を行い、国際通用性の確保を図る。</p> <p><b>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>17) 幅広い教養教育から専門教育に繋がる充実した一貫性のある学士課程教育を実施するために、大学協議会をコアとして全学的な体制の整備・充実を図る。</p> <p>18) 教育組織の再編・強化を図るとともに、必要に応じて入学定員を見直す。学部においては、スポーツ健康科学部の更なる入学定員増を実施（600名へ増員）し、学科再編成等を行</p>	<p>て客観的指標に基づいて評価を行い、筆記試験だけでは評価が難しい技術・意欲等を多面的、総合的に評価している。            (医療科学) 講義と実習から構成される授業科目については、筆記試験の評価に実習等の評価も加味した多面的・総合的な評価を行っている。</p> <p>(医) 各学年の進級判定基準にて、GPAも加味して総合的に進級・卒業の判定を行うことを教育要項に明記している。また、要指導対象学生を選出する際の参考としてもGPAを活用している。</p> <p>(スポーツ健康) 学生の学修到達度についてGPA得点を判定基準の一つとして検証している。GPA得点は学内の順位づけや翌年度の履修登録可能単位数の判定、基準以下の学生には退学勧告を行う場合がある。また、海外大学でも導入されているため、海外留学時の選考資料として活用されることがある。</p> <p>(医療看護) GPAを導入しており、進級判定、卒業認定、助産師課程選抜試験等における総合判定データの一つとして利用している。アドバイザー教員による個別指導にも利用している。</p> <p>(保健看護) GPAを進級・卒業判定の参考にしている。</p> <p>(国際教養) GPAを進級・卒業判定時の参考とし、成績不良学生の特別アドバイジングケアシステムにおける対象者判定の基準として利用している。また、留学希望者の留学可否審議の際の指標として利用している。</p> <p>(保健医療) GPAを進級判定時の基準の一つとして利用している。また成績不良学生の学生指導の基準としても利用している。</p> <p>(医療科学) GPAを進級判定時の基準の一つとして利用している。また成績不良学生の学生指導の基準としても利用している。</p> <p><b>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>(大学) 大学協議会では、当年度に次年度教育課程の編成に関する全学的な方針を策定し、次年度にその方針に基づいた各学部・研究科の取組内容を検証し、教育課程の充実を図っている。</p> <p>(法人) 令和6(2024)年4月薬学部開設に向けて令和5(2023)年3月文部科学省に学部設置の認可申請書及び寄附行為変更認可申請書を提出した。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>○教育環境の整備</p> <p>8) 本学の理念・目的の実現のため教育設備を充実させるとともに、教育効果の検証を行い、より教育効果の高いカリキュラムを構築する。</p>	<p>う。医療看護学部・保健看護学部についても入学定員増に取り組む。また大学院においては、医学研究科修士課程・博士課程、医療看護学研究科博士前期課程・後期課程の入学定員増に取り組む。医学研究科修士課程に社会の要請に応じたリカレントコースの開設を目指す。保健医療学部を基礎とする新研究科の開設を検討する。</p> <p>19) 令和4年度(2022年度)に浦安市日の出地区に医療科学部(仮称)を開設し、医学・医療の基本的素養を基に高度で専門的な知識を身につけ、確かな技術を修得し、高い実践力を備えた臨床検査技師及び臨床工学技士の育成を目指す。</p> <p>20) 令和5年度(2023年度)を目標として、AIに関する知識とスキルを身につけ、医療・スポーツをはじめ各種の場面で蓄積されたビッグデータを解析・分析し、課題解決策や新たな価値を創造できる人材の養成を目指して新学部開設の検討を進める。</p> <p>○教育環境の整備に関する計画</p> <p>21) 学生にとって学びやすい環境整備を図り、多様なメディアを活用した教育体制の充実、シミュレーション教育の充実を推進するとともに、カリキュラムの教育効果を検証し、教育効果の高いカリキュラムの構築を図る。また、グローバル化に</p>	<p>(医学研究科) 令和3年4月に医学研究科医科学専攻(修士課程)の入学定員増(40名→60名)を実施して以降、令和4年度98名、令和3年度77名が入学し、入学定員を大きく充足している。令和4年度(10/1時点)の修士課程大学院生に占める社会人の割合は約40%(71名/176名)であり、リカレント教育として役割を果たしている。</p> <p>(医療看護学研究科) 博士前期課程に秋入学となるグローバルナーシングコース(留学生対象)を設置し、定員を4名増員して、29名となった。博士後期課程にもグローバルナーシングリーダーシップコース(留学生対象)を設置し、定員を2名増員して12名となった。</p> <p>(スポーツ健康) スポーツ健康科学部の定員増(600名に増員)と学科再編を実施し、新たなカリキュラムが運営されている。</p> <p>(医療看護) 医療看護学部では、令和4年4月入学者から定員を20名増員し220名となった。</p> <p>(保健看護) 令和4(2022)年度から入学定員を120名から130名に増員した。更なる定員増を計画している。</p> <p>(国際教養) 令和6(2024)年4月大学院国際教養学研究科修士課程開設に向け、令和5(2023)年3月文部科学省に設置認可申請書を提出した。</p> <p>(保健医療) 大学院保健医療学研究科修士課程の設置が認可され、令和5(2023)年4月開設が決定した。</p> <p>(法人) 令和3(2021)年3月文部科学省に定員増に伴う学則改正認可申請書を提出し、6月29日付で収容定員の増加に係る学則変更認可を受けた。</p> <p>(法人) 令和5(2023)年4月健康データサイエンス学部開設に向けて、令和4(2022)年3月文部科学省に学部設置の認可申請書及び寄附行為変更認可申請書を提出し、同年8月に設置が認可され、令和5年4月開設が決定した。</p> <p>○教育環境の整備に関する実施状況</p> <p>(医) 動画配信サーバーを導入し、学習管理システムmanabaと連携したオンデマンド動画配信による授業運営を継続している。カリキュラム委員会に参加する学生からは、復習のために授業の動画をアーカイブ化して公開してほしいとの要望も寄せ</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>通用するICTサービス等の機能強化・拡充を図り、ICTを活用したアクティブラーニング型の授業・自修支援及び教学システムを充実させ、教育環境の強化を図る。</p> <p>22) 電子ジャーナル・データベースの適切な選定・収集、順天堂大学学術情報リポジトリのコンテンツ登録・発信の推進、学術標本資料データベースの作成等により、学術メディアセンターにおける学術・情報資源を充実させる。</p>	<p>られており、一部の授業科目においてアーカイブ化を開始した。</p> <p>(スポーツ健康) ICTを活用したアクティブラーニングの実施に向け、2号館21番22番教室のAVICT機器を全面的に更新し3号館と共通の仕様として教育環境の強化を図った。</p> <p>(医療看護) シミュレーション教育の充実のために、大学院シミュレーション教育研究センターを設置し、教育環境の強化を図った。新マルチメディア教室にあった大学院自習室を改装し、学生が主体的に学習できる環境としてラーニングコモンズを開設した。全学的なJuntendo-PassportのバージョンアップによるLMS機能の強化やMicrosoft Streamを利用した動画配信で授業支援を行った。</p> <p>(保健看護) 学生にとって学びやすい環境整備を図り、多様なメディアを活用した教育体制の充実、シミュレーション教育の充実を推進し、カリキュラムの教育効果を検証するためのアンケート調査を実施した。ICTを活用したアクティブラーニング型の授業・自修支援を行い、クラウド型学習支援システムmanabaを活用することによりリテラシー向上を視野に入れ教育環境の強化を図っている。</p> <p>(国際教養) 年間を通して対面授業とオンライン配信を併用したハイフレックス型授業を行った。ライブ授業の他、オンデマンド動画配信による授業形態も導入し、教学システムJuntendo PassportやGoogle Classroomを用いて動画配信、授業資料配信を行っている。対面授業では、遠隔システムにより1つの授業を複数教室へ配信し、教室の密をさけた講義を行っている。</p> <p>(保健医療) Juntendo PassportやGoogle Classroom等を用いて資料配信や授業動画の公開を行う等、学生の自修支援を行っている。Juntendo Passportのアップデートも実施され、LMS機能の強化や復習用の授業動画配信に取り組んでいる。</p> <p>(医療科学) Juntendo PassportやGoogle Classroom等を用いて資料配信や授業動画の公開を行う等、学生にとって学びやすい環境整備に取り組んでいる。</p> <p>(大学) 電子ジャーナルやデータベースの契約は、講座・教員の購読希望、学術的な価値、購読費用を考慮したうえで選定して、各キャンパス学術メディアセンター運営委員会の審議を経て契約を行った。また利用が多いジャーナルについて、閲覧範囲を拡大した。令和4年(2022年)4月に新設された浦安・日の出キャンパスは、新たに電子書籍を契約するとともに、利用</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>○教育の質の改善のためのシステム</p> <p>9) 世界的研究・教育拠点にふさわしい教育を実施するために、内部質保証体制を整備し、教育活動の点検・評価を行い、改善するシステムを構築する。</p>	<p>○教育の質の改善のためのシステムに関する計画</p> <p>23) 各学部のカリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会の機能を充実させ、外部評価制度の導入を検討する。</p>	<p>が見込まれる電子ジャーナル・電子書籍、データベースを契約範囲に含めた。</p> <p>(本郷・お茶の水C) コロナ禍における学術情報提供として、シラバスに掲載される教科書や参考図書を中心に電子書籍の契約を進めた。</p> <p>令和2(2020)年8月に「順天堂大学オープンアクセス方針」を制定し、順天堂大学学術情報リポジトリのコンテンツとして、研究論文を掲載して学術情報の発信を行っている。学術メディアセンター運営委員会において、学術情報リポジトリのあり方とともに、学内刊行誌、研究データ、貴重資料画像等の搭載を検討している。令和4年度(2022年度)は、スポーツ健康科学部の紀要『順天堂大学スポーツ健康科学研究』の学術文献を新たに搭載した。</p> <p>(保健看護) 電子ジャーナル・データベースの適切な選定・収集を行った。</p> <p>○教育の質の改善のためのシステムに関する実施状況</p> <p>(医) カリキュラム委員会は、8月を除く毎月1回定例開催している。カリキュラム委員会には、学生の代表者が年3回、外部評価委員が年1回参加している。カリキュラム評価委員会は年度に2回開催し、継続的にカリキュラムの点検を行っている。</p> <p>(スポーツ健康) 令和4年度はカリキュラム委員会を3回、カリキュラム評価委員会を3回開催し、教育内容の充実に向けた検討を行った。</p> <p>(医療看護) 毎月定例でカリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会を開催した。在学生、卒業生、教員を対象にした調査からカリキュラムの評価を行っている。</p> <p>(保健看護) カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会において継続してカリキュラムの検証を行っている。在学生、卒業生に対する調査、卒業生の就職先からの外部評価を取り入れている。</p> <p>(国際教養) カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会を開催し、継続的にカリキュラムの点検を行っている。在学生、卒業生の意見を聴取する機会を設け、カリキュラム改訂検討に活かしている。</p> <p>(保健医療) カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会を毎月開催し、教育内容の充実に向けて検討している。</p> <p>(医療科学) カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会を定期的に開催し、教育内容の充実に向けて検討している</p>



中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>10) 教員の教育能力の向上及び教育の質の改善と向上を図るためファカルティ・ディベロップメント（FD）を継続的に実施し、教育活動を点検・評価するとともに教育改善に取り組む。</p>	<p>24) 卒業生に対し卒後の長期フォローアップを実施し、その結果をカリキュラム改革の検討の仕組みに盛り込む方策を検討する。</p> <p>25) 国際通用性を備えた教育活動を担う教員の教育力向上を目指し、学生による授業評価等を踏まえ、FDを継続的に取り組むとともに、各学部ファカルティ・ディベロップメント推進委員会において、FDの分析とFDの在り方を検討し、PDCAサイクルを更に機能させる。</p>	<p>(医) 卒業生に対してカリキュラムアンケートを実施し、結果をカリキュラム委員会にフィードバックし、改善の検討を行っている。また、コンピテンシーの達成度を自己評価する「学修成果に係る自己評価アンケート」も実施している。</p> <p>(スポーツ健康) 卒業生アンケートの実施の検討を進め、その結果をカリキュラム改善に生かすことを検討している。</p> <p>(医療看護) 卒業生へのアンケートを実施しており、その結果に基づきカリキュラム評価委員会で検討しているほか、卒業生の意見を在學生に開示した。</p> <p>(保健看護) 卒業生に対し卒後の長期フォローアップを実施し、その結果をカリキュラム改革の検討の仕組みに盛り込むため、令和4年度からキャリア支援ワーキンググループを立ち上げた。</p> <p>(国際教養) カリキュラム評価委員会主催による卒業生座談会を開催し、学部教育カリキュラムについて在学当時の感想、卒業後の自分にどう活かされているか等の意見交換を行い、卒業生の評価を学部カリキュラム改訂へ繋げる取組みを行った結果を、教授会で報告、さらに学部紀要へ投稿して学部内での共有を図った。就職・キャリア支援部門で、卒後の就労状況の把握とフォロー体制の充実を図るための一環として、就職支援室主催によるOBOGと在學生交流会を開催した。</p> <p>(保健医療) 令和4年度に初めての卒業生を輩出したことから、今後卒業生の意見をカリキュラム改革に検討に盛り込むことができる仕組みを検討していく。</p> <p>(医) FD（医学教育・卒後教育ワークショップ）に学部学生、大学院生、初期臨床研修医を参画させ、学生等の意見をカリキュラム改革に反映させる取組を実施している。FDの分析とFDの在り方の検討については、今後、FD推進委員会で検討する。</p> <p>(スポーツ健康) 令和4年度は、「学部コンピテンシーに関する現状把握と改善の検討」「ハラスメント防止研修 -基本的な考え方と対応について学ぶ-」をテーマにFDを2回実施し、教員の教育力向上を図った。また、参加者アンケートに基づき、その分析とFDの在り方についてFD推進委員会にて検討を行っている。</p> <p>(医療看護) FD委員会が主催となって毎年FD講演会を開催しており、講演会の内容に基づいたグループワークを行うことで</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>26) 教育の状況及び教育の成果に関する定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等を改善する。</p>	<p>教員間の体験・知見を共有する場を設けている。なお、講演会の実施に当たっては、過年度の参加者アンケートを基にFD委員会において検証し、質の向上を図っている。</p> <p>(保健看護) 学生による授業評価に基づくリフレクションを行っている。FD委員会を中心として定期的に情報共有しPDCAサイクルを構築している。FD研修会には全教職員が参加し、成果を共有している。</p> <p>(国際教養) 学生による授業評価に基づくリフレクションを行っている。毎年度、学部運営、学生教育の在り方、教育課程プログラムをディスカッションするFDを複数回開催し、専任教員の他、在学生、卒業生、事務職員が参加し、学部運営に関する意見交換、情報の共有を図っている。</p> <p>(保健医療) 毎年開催する教員FD研修会に専任教員全員が参加し、教員の資質向上のための取組について検討を行っている。</p> <p>(医療科学) 定期的に開催する教員FD研修会に専任教員全員が参加し、教員の資質向上のための取組について検討を行っている。</p> <p>(医) 定期試験、卒業試験、実習評価のほか、授業評価アンケート、学生生活実態調査、卒業生に対するコンピテンシーの到達度の自己評価、カリキュラムアンケート調査等を行っており、それらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。</p> <p>(スポーツ健康) 定期試験、授業評価アンケート、学生生活実態調査、コンピテンシーの到達度評価等を行っており、それらの分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。</p> <p>(医療看護) 定期試験、卒業試験、実習評価のほか、授業評価、学生生活実態調査、学生への意見聴取、コンピテンシーの到達度評価、卒業後アンケート調査等を行っており、それらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。</p> <p>(保健看護) 定期試験、卒業試験、実習評価のほか、授業評価アンケート、学生生活実態調査、在校生・卒業生に対するコンピテンシーの到達度の自己評価アンケート等を行っており、それらの分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。</p> <p>(国際教養) 定期試験、授業評価、学生生活実態調査、卒業時アンケート、英語外部試験、コンピテンシー到達度セルフチェック等により、これらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p><b>(3) 学生への支援に関する目標</b></p> <p>○学生の学習支援</p> <p>11) 世界的研究・教育拠点にふさわしい教育を実施するために、学生のニーズに応じた学習支援や生活支援のための相談・助言等の体制を拡充する。</p> <p>12) 学生のキャリア教育を充実させ、学生の多様なキャリアパスに応じた進路支援機能を強化することにより、学生の進路に係る不安の解消を図るとともに、多様な人材を社会の各方面に輩出する。</p>	<p><b>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>○学生の学習支援に関する計画</p> <p>27) 学生の自律的学習や課外活動が円滑に行われるために、環境作りや支援体制を整備・充実する。</p> <p>28) 生涯を通じた持続的な自己開発力を自ら発揮できるように、修学年次に応じたキャリア形成支援を実施し、インターンシップや学生の職業意識啓発のためのセミナー等の内容の充実を図る。</p>	<p>教育内容・方法等の改善を図っている。</p> <p>(保健医療) 定期試験、実習評価、授業評価、学生生活実態調査、コンピテンシーの到達度評価等を行っており、それらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。</p> <p>(医療科学) 定期試験、授業評価、学生生活実態調査等により、これらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。</p> <p><b>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>○学生の学習支援に関する実施状況</p> <p>(大学) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う次の支援措置を継続した。①学費延納措置、②各種修学支援制度や奨学金の申請手続きの支援、③オンライン授業受講のための通信環境のサポートとして通信機器の貸与。</p> <p>(医) 教務委員会、カリキュラム委員会、学生部委員会が連携して対応している。</p> <p>(スポーツ健康) 学習支援は教務委員会で、課外活動は学生部委員会、スポーツ推進支援センター運営委員会が中心となり、環境整備や支援について検討を行っている。</p> <p>(医療看護) 教務委員会、学生部委員会で取組んでいる。課外活動が円滑に行われるよう学生部委員会が中心となり、学生との連絡会議の場を設け学生自治行事のサポートを行っている。</p> <p>(保健看護) 教務委員会・学生部委員会を中心として学生の自律的学習や課外活動が円滑に行われるために、環境作りや支援体制を整備・充実を図っている。</p> <p>(国際教養) 教務委員会・学生部委員会を中心として学生の自律的学習や課外活動が円滑に行われるための環境作りや施設貸出等の支援体制の整備・充実を図っている。</p> <p>(保健医療) 学生部委員会を中心に学生生活全般の支援を行っている。</p> <p>(医療科学) 学生部委員会を中心に学生生活全般の支援を行っている。</p> <p>(医) 修学年次に応じて実施される一般教育(1年次)、基礎医学(1～3年次)、臨床医学(3～4年次)、臨床実習(4～6年次)のカリキュラムを通じて、段階的なキャリア形成支援を実施している。6年次には将来の臨床研修先や研究先となる機関を決定する上で重要となる学生インターンシップ実習を実施し</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>○学生の生活支援</p> <p>13) 学生が充実した学生生活を送るための生活支援・心のケア、障がい学生支援を充実させる。</p>	<p>○学生の生活支援に関する計画</p> <p>29) 利用者である学生の視点に立って、学生生活・健康相談体制、就職支援体制、ボランティア活動支援体制等の充実・強化を図る。</p>	<p>ている。基礎研究医養成プログラム登録学生が一定の要件（研究実績）を満たした場合、学生インターンシップ実習において臨床実習ではなく、基礎系講座・研究室、研究センターでの研究実習や海外施設への研究留学も可能とするなど、多様なキャリア形成支援を行っている。</p> <p>(スポーツ健康) 2年次の必修科目である「キャリアデザイン」、正課外の「自己分析講座」を中心に早期から自身の将来について考える機会を設け、幅広い職業観を全員が形成できるよう働きかけている。さらに、正課外において学生の職業意識啓発のためのセミナー等を年間延べ 130 日開催した。</p> <p>(医療看護) 3年次より外部講師を招聘しての就活関連講座の実施や附属 6 病院の内部生向け就職説明会を開催するなどして早期からキャリアプランを想定して実習等に取り組めるよう支援を行っている。</p> <p>(保健看護) 令和 4 年度からキャリア支援ワーキンググループを立ち上げ、在学生の就職支援、卒業生の再就職や大学院進学等の支援を行っている。在学生と卒業生の交流会を行なっている。</p> <p>(国際教養) 就職支援面談は、対面以外にオンラインツールを積極的に活用している。コロナ禍における企業側の採用方針の転換、採用活動の変化への対応として令和 4 年度は計 64 回の就職セミナーと延べ 1,818 枠の個別面談を実施した。多職種・業界へ就職する本学部の特性を踏まえ、学生が自ら学びをデザインし、将来に備えて自律性を高めることをテーマにした検討を継続しており、各授業科目とコンピテンシーとの対応をシラバスに載せている。</p> <p>(保健医療) 必修科目であるゼミナールにおいて、多様なキャリアを知り早期から自身の将来を考える機会を与えている。また就職活動支援のための取組みとして、外部業者による就職支援講座を実施し、就職活動等に必要な情報提供を行っている。</p> <p>(医療科学) 必修科目であるキャリアゼミナールにおいて、多様なキャリアを知り早期から自身の将来を考える機会を与えている。</p> <p>○学生の生活支援に関する実施状況</p> <p>(医) 学生部委員会にて学生生活支援、安全衛生管理室にて健康相談、学生相談室にてプライベートの悩みについて支援を行っている。</p> <p>(スポーツ健康) さくらキャンパス学生課、安全衛生管理室、就</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>30) 障がいを持つ学生が必要とする支援ニーズを把握し、支援体制の拡充を図るとともに、性的少数者に配慮した環境の整備や女子学生のニーズに応じた支援体制の拡充を図る。</p>	<p>職課が中心となり、学生への相談体制や就職支援体制を構築し、学生の支援を行っている。</p> <p>(医療看護) 学生部委員会において、学生生活・健康相談、就職支援を行っている。外部ボランティアについては社会連携推進室にて、既存のボランティアサークルに対しては学生部委員会で対応している。</p> <p>(保健看護) 学生部委員会を中心に学生の生活支援を進めている。安全衛生管理室にて心の相談を含めた健康相談、支援を行っている。</p> <p>(国際教養) 学生部、安全衛生管理室、就職支援室、担任・ゼミナール担当教員が連携して学生の生活支援を進めている。心のケアが必要な学生に対しては、学生相談室カウンセラー（臨床心理士・公認心理師）が学生の相談にあっている。</p> <p>(保健医療) 学生部委員会を中心に、学生からの相談に応じている。本郷・お茶の水キャンパスの相談窓口として、学生相談室の開室状況等も適宜アナウンスしている。</p> <p>(医療科学) 学生部委員会にて学生生活支援、安全衛生管理室にて健康相談、学生相談室にてプライベートな悩みについての支援を行っている。</p> <p>(医) 障がいを持つ学生の在籍数は非常に少ないが、学内に障害者用トイレやエレベーター、スロープを整備している。支援や配慮が必要な学生については学生部委員会で対応する。臨床実習中の学生については、臨床実習担当者会において対応を協議している。</p> <p>(スポーツ健康) 「障がいのある学生の支援に関する基本方針」に基づき、ニーズに応じた支援体制の充実を図っている。</p> <p>(医療看護) 学部特性上、障がいを持つ学生はいないが、学内に障害者用トイレやエレベーター、スロープを整備している。支援が必要な学生が発生した際は学生部委員会で対応する。</p> <p>(保健看護) 障がいを持つ学生を支援するために合理的配慮申請書を作成し運用を開始した。学内に障害者用トイレやエレベーターを整備している。</p> <p>(国際教養) 令和2年度に入学した脳出血後遺症による電動車椅子を使用している学生のニーズに応えるよう、本人、保護者、担任教員、事務室と連携を密にしている。対面授業日には、一時的に休憩できるスペースを確保している。履修科目担当教員に対しては、授業内での提出物、課題・レポート提出期限等の配慮を求めている。性的少数者に配慮し、第3教育棟2</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p><b>(4) 入学者選抜に関する目標</b></p> <p>14) アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を行い、深い知識と高度な技術、幅広い教養と豊かな感性を兼備え、国際感覚に優れた教育者・職業人となるに相応しい人材を受け入れる。</p>	<p><b>(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>31) アドミッション・ポリシーを踏まえ、本学への入学を希望する優秀な入学志願者の確保を目指し、従来の入試選抜方法に加え、国際バカロレア、TOEFL等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜する。各種入試説明会、オープンキャンパス、大学案内冊子等を通じて、本学の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を多様な手段を用いて展開し、効果的な入試戦略広報を行う。</p>	<p>階、第2教育棟1階多目的トイレにレインボーマークを貼付している。</p> <p>(保健医療) 障がいを持つ学生は在籍していないが、学内に障害者用トイレやエレベーター、スロープを整備している。支援が必要な学生が発生した際は学生部委員会で対応する。</p> <p>(医療科学) 学内に障害者用トイレやエレベーター等を整備している。支援が必要な学生が発生した際は学生部委員会で対応する。</p> <p><b>(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>(大学) 受験生への情報発信として、各学部でホームページの充実を図っている。一般選抜において共通化に取組み、医学部以外の学部で一般選抜を2回以上実施し、受験機会の拡充を図り、より多くの学生が受験できるようにした。COVID-19により入国できない外国人・帰国生や、国内の遠方の受験生を対象にオンラインで試験を実施し、コロナ禍においても国内外からの優秀な学生の確保につとめている。</p> <p>(医) 国際性・多様性を重視した複数の入試選抜方法(国際バカロレア/ケンブリッジ・インターナショナル選抜、帰国生選抜、外国人選抜、研究医特別選抜、英語外部試験スコアを用いた選抜方式)を実施している。面接試験においては、願書に記載したTOEFL等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験を証明する資料を持参させ、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜している。各種入試説明会、オープンキャンパス、学部パンフレットの配布等を通じて、本学の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を多様な手段を用いて展開している。</p> <p>(スポーツ健康) アドミッション・ポリシーを踏まえて、優秀な入学希望者の確保を目指し、外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を選抜している。</p> <p>(医療看護) 複数の入試選抜方法を実施しており、国際バカロレア、TOEFL等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜している。各種入試説明会、オープンキャンパス、大学案内冊子等を通じて、本学の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を多様な手段を用いて展開している。</p> <p>(保健看護) アドミッション・ポリシーを踏まえ、本学への入学</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>32) アドミッションセンター（H28 設置）を中心に一般入試及び各学部の多様な選抜試験により入学した学生の入学後の修学状況や学業成績、大学院への進学状況等の追跡調査を実施するとともに、求める人物像に適った学生が入学しているか検証を行う。これを踏まえて本学における入試制度の改革等について検討し、改善を行う。</p>	<p>を希望する優秀な入学志願者の確保を目指し、帰国生選抜入試では国際バカロレア、TOEFL 等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜している。各種入試説明会、オープンキャンパス、大学案内冊子等を通じて、本学の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を多様な手段を用いて展開し、効果的な入試戦略広報を継続している。</p> <p>(国際教養) 多文化多言語共生社会の構築に貢献できるグローバル市民の育成を教育目標に掲げ、アドミッション・ポリシーで求める学生像を示し、総合型選抜においては国際バカロレア選抜、海外帰国生選抜、外国人特別選抜の各選抜方式を設けている。総合型選抜、学校推薦型選抜においては外部試験利用選抜の方式を設け、主に英語、スペイン語、フランス語、中国語の検定スコアの提出と、同言語による面接試験を実施している。</p> <p>(保健医療) アドミッション・ポリシーに基づき、多様な学生を受け入れるため、総合型選抜、特別選抜（帰国生）を実施している。</p> <p>(医療科学) アドミッション・ポリシーに基づき、多様な学生を受け入れるため、総合型選抜、帰国生徒選抜を実施している。受験者層の裾野拡大を図るため、地方入試も実施している。</p> <p>(大学) 令和2年度に学部及び研究科に入試検証委員会を設置し、入試終了後の次年度早期に入学者選抜の公正性、適切性を検証した。令和3年度以降も引き続き同委員会にて検証を行い、適切な入学者選抜の実施に努めている。</p> <p>入試制度の検討及び入学後の追跡調査の足掛かりのため、まずは入学者における入学時の成績情報（学力試験）の一元管理を実施した。</p>

## II 研究

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p><b>II 研究に関する目標</b>  <b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標</b></p> <p>15) 世界的研究・教育拠点にふさわしい世界をリードする学術研究環境を創出する。</p>	<p><b>II 研究に関する目標を達成するための計画</b>  <b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>33) 基盤研究の充実を図るために、健康総合大学としての特徴を活かした独創的・先端的な研究成果を上げるとともに、基礎</p>	<p><b>II 研究に関する目標を達成するための実施状況</b>  <b>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>(大学) 本学の資源を有効活用し、部門横断的な研究の推進を図るために、健康総合科学先端研究機構を整備し、本学の特筆す</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>16) 世界的研究・教育拠点として、国際社会・国・地域における本学の役割を認識し、国内外の企業や研究機関との連携を強化するとともに研究を促進し、その成果を広く社会に還元する。</p>	<p>研究及び異分野融合研究の推進と新たな研究フロンティアの開拓を目指す。</p> <p>34) 本学の研究力の強化を図るために、外部の専門機関等を活用し、外部資金の獲得額等を含むデータベース分析及び客観的評価指標（論文数、Top10%補正論文数等論文の質・量等の評価指標、外国人研究者の招聘数などのグローバル化指標等）を用いたIR（Institutional Research）による研究水準評価を実施する。</p> <p>35) 国際共同研究の推進を図るために、海外研究機関との研究ネットワークを活用し、大学間の連携活動を強化する。その成果として国際共著論文数の増加を図る。</p> <p>36) 令和4年度を目処として国外向けの英語版情報発信サイトを拡充する。</p> <p>37) 産業界・行政・研究機関等と連携した研究プロジェクトを国内外や地域横断的に企画推進するとともに、研究成果について</p>	<p>べき分野・領域のプロジェクトを選定し、本学の医学・スポーツ領域の開拓とともにブランディング化を図った。</p> <p>またスポーツ領域の教育・研究・産学連携の推進と強化のため、学内スポーツ系部門横断型プロジェクト推進等の基盤拡充を図るためにスポーツ健康医科学推進機構を令和3年4月に設置した。</p> <p>(スポーツ健康) 大学院スポーツ健康科学研究科が、附置研究施設のスポーツ健康医科学研究所を中心にスポーツ健康医科学推進機構と連携して、独創的・先端的な研究成果を上げるべく研究活動を活性化している。</p> <p>(保健看護) 医学部、スポーツ健康科学部等、他学部との共同研究を推進している。フィンランドのユヴァスキュラ応用科学大学と共同研究を継続している。</p> <p>(国際教養) 大学院医学研究科を併任する教員が多く、特に医療、ヘルス、医療通訳の分野において健康総合大学としての特徴を活かした横断的な研究活動を実践している。</p> <p>(大学) 研究力強化を図る指標を検証するため、クラリベイト社と投稿先ジャーナル選定のためのジャーナル関連指標となる①ジャーナル・インパクトファクター、②Journal Citation Indicator (JCI)、③Journal Normalized Citation Impact (JNCI) について意見交換を行った。</p> <p>科研費に関する各種情報を文部科学省のデータベースより抽出・分析し、本学・他学の受給額の動向を調査するとともに、他学との比較から、本学の研究水準の評価を行った。</p> <p>(大学) 特筆すべき研究成果について、積極的にプレスリリースを行った。成果内容は、国際共著論文への発展を想定し、国内外の研究者がアクセスする世界最大の科学系プレスリリースのプラットフォーム (EurekAlert!) への掲載も行った。</p> <p>(大学) 最新研究に関する国内向けプレスリリースの内容を英文化し、本学英文ウェブサイト、および世界最大の科学系プレスリリースのプラットフォームである EurekAlert! に掲載し、世界のウェブメディアにも配信した。海外向けの SNS (twitter) を立ち上げ、上記の内容の発信を開始した。</p> <p>(大学) 産学連携の推進を想定し、医学系講座・研究室の取組を「研究紹介」として和文・英文で作成し、研究業績と共にホー</p>



中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p><b>(2) 研究実施体制等に関する目標</b></p> <p>17) 世界的研究・教育拠点にふさわしい学術研究活動を促進するための研究体制を再編・強化する。</p> <p>○研究者等の配置</p> <p>18) 国際的に最高水準の研究を展開するために研究者等の適正配置を進める。</p>	<p>てホームページをはじめとする各種のメディアを通して積極的に発信し、産業創出の牽引を図る。</p> <p><b>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>38) 研究科においては、学問分野をリードするとともに、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応できる研究体制を構築する。大学院附置研究施設（研究センター・研究所）は、先端的かつ学際的な異分野融合型の研究を推進し、社会の変化に柔軟に対応できるような研究体制を目指してより一層の強化を図る。また本学ブランド研究の推進を図るために学長のリーダーシップのもとに部門横断型プロジェクト研究を立ち上げ、事業支援組織の「健康総合科学先端研究機構」（平成 29 年度整備）を研究拠点として全学的なプロジェクト研究の推進を図る。</p> <p>39) 産業界・行政・研究機関等との共同研究グループを容易に構築できるように、健康総合科学先端研究機構（私立大学研究ブランディング事業の選定に伴い整備）をコアに、部門横断型プロジェクトを構築し、医工連携などの異分野交流の場の拡大と有効化を図り、リサーチアドミニストレーター（以下「URA」という。）による研究支援を推進する。</p> <p>○研究者等の配置に関する計画</p> <p>40) 学術研究活動の高度化を促進するために、戦略的見地に立った公正で透明性の高い人事を遂行し、優秀な研究者を確保する。本学の学風「三無主義」に基づき、出身校、国籍、性による差別なく優秀な人材について既に定めている割合に基づき積極的に登用する。</p> <p>男女共同参画推進に関する研修・フォーラムの開催や研究支援員等の配置の補充、質の確保及びワーキングシェアの導入によって研究と出産・子育て・介護等のライフイベントとのバランスを配慮した女性研究者が活躍できる環境作りを行い、女性研究者比率 30%以上の達成を目指す。</p>	<p>ムページで公開している。</p> <p><b>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>(大学) 本学の研究基盤である附置研究センターを拡充するために大学院医療看護学研究科にシミュレーション教育研究センターを設置することについて令和 4 年 2 月の理事会で承認を得た。学部・研究科が保有するシミュレーターを集約化し、拠点化を図ることで優秀な若手研究者や附属病院を含めた高度実践看護師の人材育成とともに、看護教育学の研究活性化及び看護研究の更なる推進を図る。</p> <p>健康総合科学先端研究機構では、医学・スポーツ・臨床研究領域のブランディングプロジェクト研究として 13 件を選定し、順天堂ブランドのプロジェクト研究として組織的に支援した。設置期間などが終了する、共同研究講座・寄付講座・競争的研究費によるプロジェクトで、本学の研究力強化とブランディング化が期待できるプロジェクトについては、学長のリーダーシップにより、機構プロジェクトとして認定し、組織的に支援を行った。</p> <p>(大学) 文科省補助事業として、健康寿命延伸プロジェクトを産学官連携により推進してきたCOIプロジェクト事業を組織的に継続支援を行うため、令和 5 年度、機構下にジェロントロジー研究センターを配置する組織改正を行う。URAを中心として実施してきた連携大学及び関連企業による共同研究は、継続実施し、社会実装化に向けた検証を機構下においても継続実施する。</p> <p>○研究者等の配置に関する実施状況</p> <p>(大学) 優秀な若手研究者として文部科学省から認定を受けた若手研究者を卓越研究員として健康総合科学先端研究機構に 2 名受入れ、研究領域を考慮し、臨床腫瘍学、神経学を併任配置した。</p> <p>2017 年に卓越研究員として採用した特任助教 1 名については 2022 年にテニュアトラック審査を行った。研究の継続と今後の活躍が期待できる若手研究者と評価し、健康総合科学先端研究機構が、令和 5 年度以降も引き続き、特任助教として研究者支援を行うこととした。</p> <p>研究活動の高度化を図るために共同研究講座等を積極的設置</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>○研究環境の整備</p> <p>19) 研究リソースの集約化・一元管理に取り組み、研究機器等の学内外における共用化を進め、計画的な整備や更新、安定的な維持管理を行うとともに様々な研究分野の研究者の相互交流による研究水準の向上を図り研究力強化を進める。</p> <p>○研究者支援</p> <p>20) 世界的研究・教育拠点にふさわしい学術研究活動を行うために必要な支援体制を整備する。</p>	<p>本学の研究基盤を支える大学院附置研究施設の研究力を強化するために、特に優秀な若手研究者を学長裁量により特任助教で任用する「次世代若手研究者育成プログラム」の継続実施を目指す。</p> <p>○研究環境の整備に関する計画</p> <p>41) 研究施設・設備・機器等の共同利用化を推進するために現行の研究基盤センターを基礎・臨床分野の拡充のために再整備を検討し、最先端の研究を実施する体制と機能の強化を図る。</p> <p>42) 革新的医療技術開発センターの設置に伴い、産学による「組織対組織」の大型の共同研究を推進するマネジメント体制が整備されたことを受け、オープンイノベーション推進のためのオープンイノベーションプログラム「GAUDI (Global Alliance Under the Dynamic Innovation)」を積極的に展開し、附属6病院の臨床力を活用し、新たな医療技術の早期実用化を目指す。</p> <p>○研究者支援に関する計画</p> <p>43) 基盤的研究環境の維持発展や先端的、独創的、学際的研究の推進に向けて、URAによる研究支援体制の一層強化・拡充を図るため、中長期的にURA人材を確保・育成を図る。</p>	<p>し、優秀な人材を学内外から特任教員等で積極的に登用した。これまで臨床系の女性研究者の上位職者割合を高めるために4名の助教を特任准教授へ登用し、令和3年度には内2名が講座内准教授へ昇格する等、教育・研究基盤の強化と共にキャリア形成の実現を図った。全学の助教以上の女性研究者比率は約36%となっている。</p> <p>大学院附置研究施設の研究力を強化するために、学長裁量による「次世代若手研究者育成プログラム」により、特に優秀な若手研究者2名を特任助教として任用した。</p> <p>令和4年度、健康総合科学先端研究機構プロジェクト(COIプロジェクト)推進のために任用した若手研究者1名を特任助教に任用し、諸活動が評価され、令和5年度、スポーツ健康科学部助教として任用が決定した。</p> <p>○研究環境の整備に関する実施状況</p> <p>(大学) 大型研究機器の共同利用化を推進するため内閣府ムーンショット事業を活用し、大型機器の学内整備と共同利用に向けた連携・支援体制を整備する。</p> <p>令和5年3月に文部科学省研究環境課の設備・機器等の共同利用を担当する専門官が来学し、研究基盤センターを見学するとともに関連スタッフと意見交換を行った。</p> <p>(大学) 附属6病院の臨床力を活用し、臨床研究の推進を図るために、GAUDIプロジェクトを活用しオープンイノベーションの推進を図るために企業の積極的な参画の推進を図った。</p> <p>○研究者支援に関する実施状況</p> <p>(大学) 研究支援基盤の拡充を図るために、平成24年2名のURAによる研究支援体制から、令和4年度5名のURAを配置して先端的、独創的、学際的研究の推進及び産学連携推進に向けた取組をしている。</p> <p>URAによる研究支援体制の強化を図るために年間を通しての公募を行い、学長面談等を経て、令和5年5月に1名のURAが加わる予定。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>44) 優れた若手研究者・女性研究者、外国人研究者等のワークライフバランスを調整し、その能力を発揮させるために、URAを配置した研究戦略推進支援センターの研究支援体制の強化を図る。</p> <p>45) 研究の質の向上を図り、優れた研究者の養成及び活躍を促進するために、公正な評価に基づき、能力や業績に報いる制度を整備する。また研究業績の全学統一管理を図るために研究業績共通管理ソフトEndNoteをライセンス導入し研究業績管理基盤整備の実現を図る。</p>	<p>(大学) 優れた若手研究者・女性研究者、外国人研究者等の研究活動と生活の調和を図るために、関連部署（男女共同参画推進室他）と連携し、URAが研究諸活動の支援（研究計画のレビュー等）を行い研究者の研究推進と強化支援を行った。</p> <p>(大学) 研究業績の全学統一管理を図るために文献管理ソフトEndNoteをライセンス導入し、研究業績管理の共通化をはかるために、学内ダウンロードサイトを更新し、利用者拡大を推進した。また学部増設に伴い、ライセンス枠の増設についても適宜対応した。</p>

### Ⅲ 診療

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p><b>Ⅲ 診療に関する目標</b></p> <p>21) 大学病院としての医療の質の向上を図り、高度・先進的な医療を提供する。</p>	<p><b>Ⅲ 診療に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>46) 医療の質を向上させ、診療体制、医療安全管理体制及び院内感染管理体制の強化を図る。</p>	<p><b>Ⅲ 診療に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>(医院) 診療の効率化と早期診断の体制整備のため超音波センターを開設した。また、コロナ禍での職員間感染防止の観点より会議・会合等はオンラインまたは一部対面によるハイブリッド開催を継続するとともに、メール配信機能を整備し、重要事項等の伝達について全職員への迅速かつシームレスな情報共有に努めている。1月に医療システムをリプレースしたことで従来では対応できなかった様々なデータを抽出することが可能となった。抽出したデータの利活用により、医療の質向上を進める。また、メディカル・メタバース共同研究講座で開発されたバーチャルホスピタルにより、WEB上でアバターを操作して院内の施設・環境を確認し、来院前に院内施設の把握が可能となり、スムーズな受診につながっている。</p> <p>(静岡) 会議の対面とWebを併用したハイブリッド開催及び研修会のe-ラーニングやDVD受講を推進した。医療の質向上及び患者利便性向上を図るべく行われた次の活動に必要な設備を整備している。①TAVI（経カテーテル弁置換術）開始、②小児外科開設、③総合再診外来開設、④歯科・歯科口腔外科開設。令和4年3月22日に経カテーテル的大動脈弁植込み術（TAVI）の実施施設に認定され、令和4年度には、約60件の治療を実施した。ダヴィンチを使用した手術について、泌尿器科、呼吸器外科、外科で実施しており、令和4年度には、約70件の治療を実施した。また、令和4年度より新たに泌尿器科で術式：腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術を外科で術式：腹腔鏡</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		<p>下結腸悪性腫瘍手術が追加となった。</p> <p>静岡県より増床が認められ、5月1日より577→603床で運用を開始した。2023年度中に633床までの増床を予定している。</p> <p>(浦安) COVID-19を中心とした感染対策の強化。高難度・ロボット支援手術の拡大。専門医療・各センターの充実。口腔ケア室を開設し、術後合併症や摂食機能への対応などの強化。RRS(院内迅速対応システム)による院内急変事例の減少。読影・病理診断レポートの未読対策を実施した。また、千葉県結核患者収容モデル事業実施施設の指定を受けた。</p> <p>(越谷) 精神医療を中心とした埼玉県東部地域の中核病院として、専門性の高い精神医療(修正型電気けいれん療法、難治性統合失調症薬物療法等)を提供し、周辺病院との医療連携を推進した。膠原病やパーキンソン病等の神経難病についても、専門医による高度な医療を提供し、関連病院との医療連携を進めている。</p> <p>(高齢者) 令和3年度末に更新した放射線画像システム(PACS)の既読管理機能を利用して、読影レポートの未読対策を実施した。病理診断レポートも未読対策を実施した。CT装置、内視鏡カメラシステム等の医療機器を更新し、質の向上を図った。</p> <p>(練馬) COVID-19への対応等の影響はあったが、感染対策を強化し、再編事業工事を予定通り令和3年7月終了できた。増床に伴う診療機能の拡大、特に心臓血管外科新設に伴う手術、NICU・GCU治療管理、産科手術室増設に伴う分娩管理、無菌室の活用等、情報システムのリプレースも含め順調に運営を行っている。ロボット支援手術も順調に実施件数を増やし、令和4年度に1台追加を行い、対象疾病の拡大を進めている。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症への対応</p> <p>(医院) 2022年より継続して一般患者の動線と滞在エリアの完全分離を図っている。一般患者は1号館、COVID陽性及び疑い患者はB棟と建物ごと分離している。患者の出入口は1号館正面玄関一か所にしてサーマルカメラを設置し、発熱患者のトリアージを実施している。令和2年4月よりB棟地上階に「発熱外来」を設置、文京区の要請によるPCRセンターとしても機能させ地域への貢献を果たしている。予定入院患者について入院前PCR検査を全件実施、緊急入院等迅速に対応を要する患者用にPOCT検査を導入し、院内感染防止に最大限の対策を講じている。外来診療においては、オンライン診療の導入、あと払いクレジットサービスと薬剤配送サービスの連動、ウォーク</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		<p>スルー検査等を導入して混雑（密）の緩和に努めている。入院診療においては、面会制限の不満を少しでも緩和するために i P a d を利用しての面会を実施している。特定機能病院としての責務を果たすために、東京都の要請に応じて入院重点医療機関の登録を行い、重症患者用 14 床、中等症患者用 30 床、計 44 床を COVID 専用病床として運用している。新型コロナウイルスのワクチン基本型接種施設として、順天堂教職員に 8 月に 4 回目、11 月にはオミクロン株対応のワクチン接種を実施した。</p> <p>(静岡) 発熱外来については、引き続きドライブスルー方式で検体採取を行なっている。現在 2C 病棟 10 床、救命救急センター 2 床の計 12 床を COVID 専用病床として運用している。</p> <p>外来においては、オンライン診療・L I N E 通知システムを導入し、外来患者の密の緩和を行っている。また、新棟建築に伴う外来再編を行い、待ち合いスペースの拡充を行った。入院患者については、オンライン面会の実施、院内面会制限による入室許可書などを運用し、対応している。</p> <p>新型コロナウイルスワクチン基本型接種施設として、当院の医療従事者をはじめ、保健看護学部学生及び一般市民に対し 4 回目、5 回目のワクチン接種を行った。令和 4 年 3 月 14 日から開始した小児（5-11 歳）を対象とした初回接種（1、2 回目）および追加接種（3、4 回目）を継続。令和 4 年 11 月 7 日からは乳幼児（生後 6 ヶ月-4 歳）を対象とした初回接種（1、2、3 回目）の接種を行っている。これまでに延べ約 50,000 回の接種を行った。インターネット回線の増強（統合インターネットの整備）として、ADSL 回線廃止に伴い院内のインターネットを院内 LAN に集約を図り、複数経路（回線、機器等）を統合によるインターネット負荷分散と耐障害性を担保できる統合インターネットを 3 月に整備した。</p> <p>(浦安) 千葉県重点医療機関として、発熱外来・発熱相談窓口、東葛地区夜間輪番体制に参加するなど、地域から多くの患者を受け入れた。確保病床としては、一般床 27 床（7C 病棟）、重症病床 12 床（救命救急センター病棟・I C U）にて、重症患者も積極的に受け入れた。更に近隣ホテル療養施設のサポートや妊婦モニタリング事業等を行い、地域医療にも貢献した。ワクチン接種については、浦安市との連携を強化して、個別接種の受入れ、市民向け接種会場へのスタッフ派遣等、接種率向上に貢献した。</p> <p>(越谷) 新型コロナウイルス感染症対策のため、毎朝受付開始より外来患者向けの出入口の制限及びトリアージ・発熱者専用の臨時診察</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>22) 地域と国際社会に開かれた医療機関として社会に貢献する。</p>	<p>47) 国民の幅広い医療ニーズに対応し、地域医療の推進と連携体制を強化する。</p>	<p>室の設置・手摺等の定期的な消毒を継続している。外来においては、オンライン診療料に係る届出を行い、対面診察の他、電話再診、オンライン診療による外来診療を実施した。入院患者には、入院時に全例PCR検査の実施と個室管理を徹底し、また、外出・外泊・面会を制限して院内クラスターを含む感染対策を行った。埼玉県や越谷市等からの発熱者PCR検査の医師等派遣要請に対し、適宜対応し、自宅療養者等健康観察事業に参加し、行政や地域医師会との連携強化を図った。新型コロナ感染症後の対応として、全診療科で連携したコロナ後遺症外来を実施している。</p> <p>(高齢者) 東京都からのコロナ病床確保の協力要請に対して、第8波時に閉鎖病棟である5B病棟をコロナ病棟に変更し、感染管理体制を強化した上で、対象病床を18床から24床に増床した。高齢者、認知症患者等のコロナ陽性患者を積極的に受け入れた。その他病棟の面会は一時緩和したが、原則禁止を継続しており、状況に応じてタブレットによる面会を実施している。外来診療については、薬だけの患者は電話問診を推奨している。外来でのPCR検査はかかりつけ患者に対して実施している。予定入院患者は、入院前PCR検査を全件実施している。新型コロナウイルスワクチン接種施設として、医療従事者、近隣の高齢者施設の従事者、江東区民への接種を実施した。</p> <p>(練馬) COVID-19感染対応に、東京都要請の病床を継続して確保。感染状況を確認しつつゾーニング調整して、一般入院診療への影響を最小限にした。院内感染を防ぐため、入院前の患者へのPCR検査、スタッフへの抗原検査を積極的に実施して院内への感染持ち込み・スタッフの休職防止に努めた。また、ワクチン接種も区民・職員へ継続して実施した。</p> <p>(法人) 浦和美園新キャンパス(仮称)整備事業については、2022(令和4)年5月に設立準備委員会が発足し、最先端の医療機能を兼ね備えた次世代型高度急性期病院の実現に向けて基本設計の作業を進めている。</p> <p>(医院) 「医療連携を共に考える会」等、他医療機関を交えて行っていた会場集合型の会については、昨年度に引き続き感染状況に応じて対面とWebによるハイブリッド式又はWeb単独開催で行う等、開催方法を工夫しつつ連携の継続を図った。</p> <p>(静岡) 地域医療支援病院として、近隣医師会・歯科医師会と連携。年1回「医療連携だより」を発刊した。地域医療連携推進法人設立後、2法人が追加となり更なる地域包括ケアシステム</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>23) 質の高い安全で安心な医療体制及びICT化を更に強化する。</p>	<p>48) 患者満足度向上のために、療養環境の改善や広報活動による患者サービスの強化を図る。</p>	<p>の構築を図る。</p> <p>(浦安) 地域医療支援病院として地域医療機関との連携を強化すべく、各診療科の医師と直接連絡が取れる地域連携ダイヤルの活用や地域連携フォーラムの開催、連携だよりの発行による情報発信を行った。更に、医療情報メディアサイトを活用した動画配信を行った。</p> <p>(越谷) 埼玉県精神医療審議会の審査員として、越谷市精神保健専門相談事業及び自殺対策連絡協議会への運営協力として、医師を派遣している。関東信越厚生局からの要請を受け、心身喪失者等医療観察法に基づく指定通院医療機関となっている。</p> <p>(高齢者) 近隣3区の医師向けに「高齢者医療に関するWEB学術講演会」を毎月1回開催した。また連携強化として紹介の多い近隣医療機関へ訪問した。認知症疾患医療センターにおいて、地域医療従事者への認知症ケアの研修会や患者、家族、医療従事者の交流会等を実施した。</p> <p>(練馬) 地域連携支援病院のとして、COVID-19感染の影響下でも紹介・逆紹介を推進、ウォークイン救急患者の当日受診を含めた救急医療を推進している。令和4年4月東京都より、練馬区で唯一の地域周産期母子医療センターに認定された。更に3次救急指定に向け令和4年10月より3ヶ月3次救急受入れを試行。東京都より令和5年3月20日救命救急センターの指定を受けた。地域医療従事者へのweb併用の講座開催等により当院の運営情報を提供し、充実した地域連携を進めている。</p> <p>(医院) 2019年より開始したあと払いクレジットサービスや薬剤配送サービスとの連動により会計窓口や薬受取窓口の混雑緩和や待ち時間に効果が出ている。またウォークスルー検査の導入やオンライン診察の導入により待ち時間の解消に努めている。</p> <p>(静岡) 市民公開講座はミニレクチャーとして隔月Web開催。年4回広報誌「J's」を発刊。LINEによる外来患者順番通知システム開始後、登録者数が約18,000件となる。ホームページ上で外来診察の予約日変更、電話等による診療及び処方箋の発行。ハローワークと合同で毎月、がん患者に対する就労相談会を実施した。増床を行い、入院待ち日数短縮を図った。また、外来待ち時間短縮の取り組みとして総合再診外来を設置した。</p> <p>(浦安) 入院手続きの簡素化を図るためLINEを用いた「ポケさぼ」を導入するなど、入院・外来待ち時間対策を進めるとともに、スマホでも見やすいホームページ、病院ニュース、</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>24) 全人的医療を行う優れた医療人育成のための教育を充実する。</p>	<p>49) 災害時における初期救急医療体制の充実を図り、災害拠点病院としての機能強化を図る。</p>	<p>information コーナーなどを活用し、病院情報を発信した。授乳室をリニューアルした。レストラン・コンビニは令和5年4月にオープン予定となっている。</p> <p>(越谷) 患者満足度向上のために広報活動として、病院ホームページに各診療科及びコ・メディカル部門による市民向け健康講座の動画を配信している。さらに妊娠・出産の精神科患者への専門的対応ができること及び新型コロナ禍における「ストレス対応」という市民向け動画を病院ホームページ掲載しサービス向上に努めている。</p> <p>(高齢者) 病院ホームページをリニューアルし、高齢者にも見やすいページ設定とした。病棟に無料Wi-Fiを設置し、入院環境を改善した。</p> <p>(練馬) 患者サービスとして、「啓発 day」として専門・認定看護師による患者等に向けた情報発信、Web 併用による区民公開講座等を開催。また、オンライン診療の拡充と分散会計の導入など、待ち時間対策も進めている。</p> <p>(医院) 令和4年10月に自衛消防力診断審査を受け、金賞を受賞している。</p> <p>(静岡) 静岡県を主会場とした大規模災害時医療訓練（政府訓練）への参加および連動して院内災害訓練を行い、国、地方公共団体等が連携し、大規模地震時医療活動時に係る組織体制の機能と実効性の確認を行うとともに、防災関係機関相互の協力の円滑化の検証を行った。災害用非常食、災害用トイレセットの更新を行った。これに流動食、液体ミルクを採用し、災害時食事提供の効率化を図っている。</p> <p>(浦安) 救急ホットライン、ラピッドレスポンスカーの活用等、救急体制の継続維持。災害訓練の継続実施とBCM（Business Continuity Management：事業継続マネジメント）の継続。パンデミックに対するBCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）の見直しを行った。令和5年3月には総合災害訓練を実施した。</p> <p>(高齢者) 総合防災訓練、火災訓練を年合計3回実施した。また、東京都、江東区と防災行政無線通信訓練を定期的実施した。</p> <p>(練馬) COVID-19 感染拡大を災害発生と同等扱いとし、TV会議システム利用により週3回災害対策委員会を開催し、全職員に対して、情報共有を行い、機能強化を図った。</p>



中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>25) 大学病院の運営体制を整備・強化し、健全な運営基盤を確立する。</p>	<p>50) 患者の心身両面に配慮した医療を的確に提供できる「チーム医療」を推進する。</p> <p>51) 国際社会に開かれた医療連携の促進を図るため、病院広報の国際化及び外国人患者診療受入体制の整備を推進するとともに、医療・医学教育・医学研究に関して諸外国と連携して人材交流を進める。</p> <p>52) 臨床研究支援体制の整備拡充を図り、治験実施件数のアップを図る。</p> <p>53) PDCAサイクルにより実習体制の整備、質の高い研修プログラムを整備拡充するとともに、地域医療機関との連携を強化し、卒前・卒後の一貫した教育・研修体制を充実させる。</p>	<p>(医院) 患者サービス支援センターを中心に、医師、看護師、薬剤師、事務員により入院支援センター及び術前外来の充実を図り、入院時のトラブルを未然に防ぐとともに退院時においてもサポートの充実を図っている。</p> <p>(静岡) 精神科リエゾンチームを発足させ、抑うつ若しくはせん妄を有する患者、精神疾患を有する患者又は自殺企図により入院した患者への診療を実施している。</p> <p>(浦安) 患者支援センターの充実。NST、緩和ケア、褥瘡、RST等、多職種によるチーム医療の推進。クリニカルパスの使用率向上を図った。</p> <p>(高齢者) 入退院支援チームとして患者・看護相談室と医療福祉相談室が活動した。</p> <p>(練馬) 入院支援センター(かけはし)による多職種連携(看護師・薬剤師・栄養士・歯科受診)により入院前支援と共に退院・在宅支援の拡充を図った。更に多職種連携でのNST、ICT、RST、緩和、その他の活動を行っている。また入院中・退院後の患者訪問を含め支援を進める。</p> <p>(医院) 現状においては海外からの新たな患者の獲得は難しい状況にあるが、大使館員など在留外国人の受け入れに力を注ぐとともに、院内印刷物やホームページの多言語化を進め受け入れ態勢を整えている。</p> <p>(浦安) タブレットを活用するなど、多言語対応の強化を図った。</p> <p>(練馬) 多言語対応機器を各受付など必要部署へ配置した。</p> <p>(医院) 院内主要会議において実施状況を逐次報告し、啓蒙を行っている。</p> <p>(浦安) 外部資金の確保(科学研究費、共同研究講座、寄付講座等)。治験件数のアップ。特定臨床研究の件数アップ。</p> <p>(医院) 臨床研修医に行ったアンケートをもとに病院幹部及び臨床研修センター長、各診療科の科長及び研修教育担当者が面談を行い、研修医教育充実のための方策について検討を行い、実習プログラムの充実や体制の整備を行っている。</p> <p>(静岡) 初期研修医から研修プログラムの改善点をヒアリングし、医療教育及びグローバルな視点で英語教育を実施し、教育及びQOLへと反映させた。初期研修医への定期的な進路面談によりニーズを把握し、専門医プログラムへの反映・拡充を行った。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>54) 初期臨床研修プログラム及び研修環境を改善し、専門医制度改革に伴う専攻医の育成において大学病院としての機能を果たす。</p> <p>55) 健全な経営基盤を確立するために、病院事業に必要な収入を確保し、適切な支出管理を行う。</p>	<p>(浦安) 実習プログラムの充実と本学学生だけでなく、他学、他施設、外国人などの受入れ強化を図った。</p> <p>(練馬) コロナ感染の影響により、研修医全体の打合せは出来なかったが、研修状況や希望・要望等を個別に聞き取り、適時改善に努めた。</p> <p>(医院) 基本的臨床能力評価試験 (GM-I TE) を導入し客観的評価に基づいて研修環境の整備を実施する。</p> <p>(浦安) 臨床研修医の確保 (マッチ率 100%) に向けた取り組みの充実。専門医教育の充実。</p> <p>(練馬) 研修環境の一環として、予てより懸念であった研修医寮を 18 室→33 室 (令和 3 年) に拡大し、入寮者以外には住宅手当の支給を予定している。令和 5 年度には、院内研修環境の整備として研修医室の拡大工事を行う。</p> <p>(医院) 各種委員会にて月次の収支チェックを実施しているが、支出に関してシステムを有効に利用したより精緻で包括的な資料の作成を検討している。</p> <p>(静岡) 月次で予算執行状況を把握し予算管理。あわせて、取引業者の選定や価格交渉、廉価品への変更による経費削減を実施。2022 年度診療報酬改定において、急性期充実体制加算、重傷患者初期支援充実加算、成育連携支援加算、早期離床リハビリテーション加算、看護職員処遇改善評価料、二次性骨折予防継続管理料などの救急関連及び地域連携関連の新規項目の算定を開始。</p> <p>(浦安) 病床有効利用推進本部による病床利用率 95% に向けての対策強化。診療報酬改定による新規項目の算定開始。適正な保険診療 (コーディング) の実施。機械材料委員会による審査継続。施設、設備、機器の有効利用の推進。経費削減の方策として、節電・省エネ・廃プラ削減などを進めた。コロナ補助金等の獲得に努めた。物価高騰の中での値上げ幅の抑制に努めた。</p> <p>(越谷) 毎月の収支予算執行状況について、予算残高表を作成し管理している。各種会議にて、毎月の稼働状況を報告し適切な保険診療の実施及び経費等の使用について啓蒙をした。</p> <p>(高齢者) 収入減少のため、大型設備投資を控え、コロナ関連の補助金の獲得に努めた。各種会議にて、毎月の稼働状況を報告し、教職員に対しコスト意識の啓蒙を図った。</p> <p>(練馬) 令和 3 年の 90 床増床再編事業完了後、拡大した診療機能を診療報酬施設基準に沿った届出と共に令和 4 年診療報酬改</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>56) 先端医療・臨床研究の安全性・品質を担保するため、倫理教育プログラムの充実、研究支援・モニタリング体制の整備等組織としての管理体制を一層強化するとともに、医療の質の向上のため、医療安全体制を強化し、定期的に第三者の機能評価（日本医療機能評価機構）の受審・認定を受け、更に質の高い医療の提供に努める。</p> <p>57) 社会・地域の要請に応え、医療従事者の生涯教育を行い、高度な知識・技能・人格を兼ね備えた優れた専門医療人の育成に取り組む。</p>	<p>定への対応を適時行い、適切な収入への対応を行っている。            新型コロナワクチンに関する事業補助金について、精緻して補助金を有効活用し必要な医療機器や感染対策環境を整備するとともに、各部門での収支状況を把握し、旬遊の評価とともに医療経費節減に努めている。</p> <p>(医院) 令和4年12月に病院機能評価モックサーベイを実施し、令和5年9月の受審に向けて準備を進めている。            (浦安) 病院機能評価更新(令和6年4月)に向けて準備開始。先進的医療の実施と事前審査の適正化を図った。            (練馬) 令和4年、臨床倫理委員会を3案件確認し、診療行為の倫理性の保持を目途に、検討や助言を行った。先進的医療の事前審査と適正な施行、施行後のフォローを行った。令和5年度の病院機能評価受審もあるため、病院機能管理室を強化して医療・業務の質の向上を図る。</p> <p>(医学研究科) 放射線技師、臨床検査技師等の医療従事者を大学院医学研究科に社会人大学院生として受け入れ、研究指導等を通じた生涯教育を実施し、高度専門職業人・医学研究者の育成を行っている。            (浦安) e-learningを活用した院内教育の強化と、外部Web研修の有効活用を推進した。            (練馬) 各診療科で実施している地域・専門的勉強会などの開催状況を整理し、専門・認定看護師による地域看護師などの医療者向けの講演会や勉強会を含め、より多くの院内外医療従事者に参加いただくよう広報に努めた。</p>

#### IV 社会貢献

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p><b>IV 社会との連携や社会貢献に関する目標</b></p> <p>26) 世界的研究・教育拠点として、国際社会・国・地域の発展に貢献するための幅広い連携活動を展開する。</p>	<p><b>IV 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>58) 大学の様々な資源・機能を活用して、国内外の大学間連携、産学官連携及び自治体等との連携による各種プロジェクトや公開講座、各種セミナー等を積極的に実施し、研究成果を社会に還元にする。</p>	<p><b>IV 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>(大学)</p> <p>1. 大学間連携、産学官連携及び自治体等との連携</p> <p>(1) 自治体等と組織的な連携体制を構築し、教育の振興、健康支援等、地域社会に寄与することを目的とした取り組みを継続している。当期は、東京都との連携事業「大学研究者による事業提案」の採択を受けた『医療現場への「やさしい日本語」導</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		<p>入・普及事業』の活動として、医療関係者（医療者、医療系学生、教員）のための「やさしい日本語」研修会の実施、シンポジウムの開催、コミュニケーション動画の作成、パンフレットの作成などを実施した。「やさしい日本語」の普及により、医療現場のコミュニケーションが改善され、都民の誰もが安心・安全な医療を受けられることを目指す。</p> <p>事業名：医療現場への「やさしい日本語」導入・普及事業</p> <p>(2) 「健康・体力増進事業（児童の体力向上推進事業・がん教育）」として文京区との連携を強化した。本学教員が大学の知的資源を還元している。</p> <p>①体力向上事業【データ分析、体力向上推進プランへの指導・助言、訪問指導（区内 20 の小学校への教員派遣）、体力向上イベントの実施、体力向上啓発資料の作成】</p> <p>②がん教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開（小中学校に教員を派遣し、がん教育の授業を実施）</li> </ul> <p>2. 自治体等との連携による研究成果の還元</p> <p>(1) 教育や研究の成果を広く社会に還元・共有する取組を行うため、健康の増進を目的として東京都、東京都医師会の後援を受け、一般の方々が多く関心を寄せる様々な疾患・病態等をテーマに、本学の教職員がわかりやすく解説をする都民公開講座を開催した。</p> <p>〈第 49 回都民公開講座：「遠隔医療の実際とその応用・発展」、第 50 回都民公開講座：「ワンチームで乗り切る新型コロナウイルスパンデミック」〉（Zoom 使用ライブ配信）</p> <p>(スポーツ健康) スポーツ健康科学部が有する人的・物的資源を生かし、地域のニーズ等を把握しつつ、公開講座の開催や各自治体等への講師派遣を積極的に実施している。今後は、関連する各部門・委員会と連携して、「中学校における運動部活動の地域移行」について、自治体の協議会に積極的に参加し、本学部が果たすべき役割を模索することとしている。</p> <p>(医療看護) 浦安市、ベイシニア浦安（老人クラブ連合会）との連携により毎年 6 回の公開講座を実施していたが、新型コロナウイルス感染症のため 2 年間できなかった分を合わせて、令和 4 年度は 8 回の開催となった。また看護教育の一環として 4 年生を中心に介護予防の講座を老人クラブに Zoom でライブ配信を行った。</p> <p>(保健看護) 公開講座は年に数回に開催し、三島市が主催する健康増進を目的とした「みしま教養セミナー」についても、毎年</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>27) 地域の持続的な発展と豊かな社会の実現のために学内資源を活用した社会貢献と地域連携を推進する。</p> <p>28) 高大接続の取り組みを推進し、生徒が大学の高度な教育・研究にふれる機会を拡大することにより、将来を担う世代の育成を行う。</p>	<p>59) 地域社会との連携活動を全学的に推進するために、関係機関との持続的な連携・協働体制を構築し、社会連携推進室及び各地区分室の機能並びに広報体制を強化する。</p> <p>60) 高大接続の取り組みを推進するために、教育についての情報交換及び交流による双方の教育の質向上を図る。</p>	<p>依頼を受け教員を講師として派遣している。</p> <p>(国際教養) 難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に向けた取り組みを行う国連機関の一つ「UNHCR」と大学パートナーズとして提携し、難民映画上映会と難民問題についての出張授業を実施している学生団体 SOAR (ソア: Students' Organization Assembled for Refugees) で活動している本学部の学生と英語科教員によるミニ・トークセッションを公開講座として開催した。グローバルヘルスサービス領域教員による、健康科学が捉える人生の意味、生きる意義を考える公開講座を開催した。</p> <p>(保健医療) 理学療法、診療放射線における研究成果を積極的に社会に還元するため、市民公開講座を実施している。</p> <p>(医療科学) 公開講座を年8回実施し、世界的研究・教育拠点として、国際社会・国・地域の発展に貢献するための幅広い連携活動を展開した。</p> <p>(大学) 地域自治体や企業、医療機関、その他団体と提携を結び、地と知の永続的な共生と発展のための様々な取組を展開しており、その内容は、広報誌「順天堂だより」やソーシャルメディアを通して広報している。特に本学ホームページにおいて、迅速に情報公開を実施した。</p> <p>(スポーツ健康) 高大接続の一環として高等学校等で実施される出張模擬授業等に積極的に参加し、高等学校との交流を深めるための取り組みを行っている。令和4年度は依然新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されたが、高等学校のニーズに積極的に対応し前年を上回る23校の出張模擬授業に参加した。加えて高等学校との連携強化に努め、うち一校と連携協定を締結した。</p> <p>(医療看護) 従来より高大接続プログラムを実施している。令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、高大接続プログラムは実施していないが、2校の学校見学を受け入れ、6校の出張模擬授業に参加し、高等学校との交流を深めた。</p> <p>(保健看護) 県内高等学校への出張授業により本学部教育の理解を深めること、高校生の大学見学等から学生及び教職員との交流の門戸を広げている。高大接続を推進するため、県内の2校と協定を締結した。</p> <p>(国際教養) 高大連携協定校と継続的なブリッジ授業等の高大接続プログラムを実施し、大学教員による授業や大学生との交流</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		<p>を通じて、高校生が将来像を考え、大学で学ぶ意欲向上に繋がっている。教職課程履修者の教育実習を高大接続提携校で行い、高校側生徒と本学部学生の双方の教育の質の向上を図っている。</p> <p>(医療科学) 高大接続の一環として、出張模擬授業等にも参加し、学校訪問を実施して高等学校との交流を深める取り組みを行っている。</p>

## V 国際

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p><b>V 国際化に関する目標</b></p> <p>29) 世界的研究・教育拠点として、研究・教育の国際化の一層の推進を図る。</p>	<p><b>V 国際化に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>61) 国際的な視野を持って世界で活躍できる人材を育成するために、海外の大学との交流協定を活用し、国際プロジェクト・プログラムや現地体験型学習に学生を派遣し、積極的な参画を推進する。</p>	<p><b>V 国際化に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>(大学) 協定校における研修留学を行う学部学生に対する奨学金制度を整備した。また、新たに4機関との交流協定を締結した。</p> <p>(医) 医学部5年次の臨床実習(選択実習)、6年次の学生インターンシップ実習において、学生の海外研修を推奨している。</p> <p>(スポーツ健康) 令和4年度は、海外派遣事業として「カセサート大学(タイ)」との交流プログラムに12名の学生(学部9名大学院生3名)、教職員2名が参加した。また、連携協定を締結している北京体育大学、カセサート大学とオンラインによる学術交流会を実施した。</p> <p>(医療看護) 交流協定を締結している海外の大学3校を中心とした派遣、受け入れの相互交流を行っている。令和4年度はコロナ禍の影響により一部研修をオンラインに変更して実施した。</p> <p>(保健看護) ユヴァスキュラ応用科学大学とMOUを締結し、オンラインでの共同授業を実施している。現在、フィンランド、ウズベキスタン、米国、タイとオンライン異文化交流を行っている。令和4年度にウズベキスタンで海外研修を行った。</p> <p>(国際教養) シンガポール国立大学日本語クラスで学ぶ学生と本学学生とのオンライン交流会を継続している。特別留学プログラムに関する協定を締結したカリフォルニア大学アーバイン校へ学生1名が長期留学に取り組んでいる。フィリピン・セブ島現地での英語集中学習プログラムが再開し、46名(夏季43名、春季3名)の学生が約一か月間の研修に参加した。また春季フランス語研修に1~4年生の31名が参加した。</p> <p>(保健医療) 保健医療学部の国際化を推進し、国際通用性のある人材を育成するため、国際交流委員会を毎月定例で開催してい</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>30) 世界的研究・教育拠点にふさわしい国際交流を展開するとともに、外国人留学生の戦略的受入と質の高い学生交流を促進し、多文化の理解とコミュニケーション能力の強化を図る。</p>	<p>62) 国際社会で活躍する人材育成を目指し、学部生及び大学院生の海外の大学への派遣数を増加させる。</p>	<p>る。令和4年度において、理学療法学科ではシンガポールおよびカナダ、診療放射線学科では台湾に学生を派遣し、短期留学を実施した。</p> <p>(医) 医学部、大学院医学研究科においては、海外研修を推奨し、海外での研修実績に応じた単位認定を行っている。</p> <p>(スポーツ健康) 令和4年度は海外派遣事業として「カセサート大学(タイ)」との交流プログラムに12名学生(学部9名大学院生3名)・教職員2名が参加した。協定校の新規開拓、語学研修プログラムの企画・検討を進めている。</p> <p>(医療看護) 令和2年度、3年度とコロナ禍のため派遣研修を中止し、オンラインでの研修に切り替えていたが、令和4年度より一部の現地派遣研修を再開した。</p> <p>(保健看護) コロナ禍にあってはオンラインで海外の学部と交流を図り、将来的な短期研修生の受け入れ準備のため、環境整備を進めている。</p> <p>(国際教養) 学生本人、留学支援団体、大学との連絡を密に管理体制を強化している。留学先のプログラム、学習内容に応じて、教授会で単位互換認定を行っている。</p> <p>(保健医療) コロナ禍であっても、海外の協定校や研究機関とのオンラインでの交流を継続したことが結実し、令和4年度は初めて本学部学生の海外短期留学が実現した。加えて、台湾からの短期研修生も受け入れた。</p>
<p>31) 世界的研究・教育拠点にふさわしい研究・教育環境の整備と国際的な産学官連携や研究協力支援を推進し、国際社会との連携強化を図る。</p>	<p>63) 教育の国際化を推進するために、英語による教育課程など海外の学生にとって魅力あるプログラムを整備・充実する。</p>	<p>(大学) JICAと研修員受入に関する覚書に基づき、9名の研修員を受け入れている。</p> <p>(医学研究科) シラバスを英文併記としている。また、令和4年度から秋入学(10月入学)の大学院生を受け入れ、英語による授業の受講のみで修了が可能となるよう、授業科目を拡充した。</p> <p>(スポーツ健康科学研究科) 外国人留学生の増加を目的に、英語による授業科目を増加させるため、国際委員会が中心となり自動翻訳システム等を導入した。これにより、大学院の国際化を更に加速させることとしている。</p> <p>(医療看護学研究科) 大学院医療看護学研究科博士前期課程にグローバルナーシングコース、博士後期課程にグローバルナーシングリーダーシップコースをそれぞれ開設し、留学生を対象に英語による授業を実施している。博士前期課程において、日本人学生と留学生が合同で受講できる授業(グローバルメディカ</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>64) 留学生向けプログラム及び受入体制の整備・拡充を通じて、外国人留学生の受入数を増加させる。</p> <p>65) 教育の国際化を担う優秀な外国人教員や海外で学位を取得した日本人教員の受入数を増加することで、カリキュラムや教</p>	<p>ルコミュニケーション) を実施している。</p> <p>(保健看護) ユヴァスキュラ応用科学大学と英語による共同授業を行なっている。</p> <p>(国際教養) 中国の河南師範大学との交換留学を開始し、令和4年度は10月から1年間、7名の学生を受入れている。</p> <p>(大学) 国際教養学部における留学生受入プログラムとして「日本語・日本文化研修プログラム」を開設している。このプログラムを通じ、協定校から7名の交換留学生を受け入れた。</p> <p>(医) 医学部においては外国人選抜、大学院医学研究科においては外国人留学生入試、外国在住外国人留学生入試(渡日前入学許可制度)を実施し、外国人留学生の受け入れを推進している。令和2年度から履修証明プログラム(国際医療人養成プログラム)を実施し、外国の医師免許を持つ医師に対して、日本の医師養成のための医学教育を施し、日本の医師免許取得に必要な知識を習得させ、国際的な視野を有する医療人の育成を行っている。令和4年度30名、令和3年度18名、令和2年度10名が本プログラムを修了している。</p> <p>(スポーツ健康) 令和4年度はコロナ禍のため学生の受け入れは行っていないが、感染終息後は交流協定を締結している海外の大学を中心に短期留学生の受け入れを再開させる検討をしている。</p> <p>(医療看護) 協定を結んでいるタイ王国タマサート大学の受け入れを実施した。また、大学院医療看護学研究科に新設されたグローバルナーシングコース留学生のサポートのため学生国際交流委員会を設置し、在学生による交流を行っている。</p> <p>(国際教養) 入学者選抜試験において、総合型選抜方式の中で「外国人選抜」を実施し、外国人留学生の受け入れを推進している。同選抜を2回実施することにより留学生の受験機会を増やし受入数の増加を図っている。また、令和4年度は、日本の大学で教育を受ける目的をもった外国人や、海外での経験や感性を帰国後に活かしていこうという日本人に門戸を拡げ、海外の大学を卒業する前の日本の春季(5月)に、国外在住者を対象に外国人選抜・帰国生選抜を新たに実施した。</p> <p>(医療科学) 多様な学生を受け入れるため、総合型選抜、帰国生徒選抜、外国人留学生選抜を実施している。</p> <p>(大学) 外国の医学部を卒業し日本の医師免許を取得した医師3名が初期臨床研修医として本学に入職した。また長期的に本学</p>



中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>育内容の国際化を推進する。また、外国人医学生を受入れ、本邦の医師国家試験合格者を養成するとともに、本学での臨床研修、大学院進学と専門医資格と学位（博士）取得者の増加を目指す。</p> <p>66) 国際通用性を涵養するためECFMG、LCME、GMC等欧米の国際的に通用する医師申請資格取得のための教育を強化するとともに外国人患者受入のアクセスを高め、急増するインバウンドニーズへ対応するためのシステム構築を図る。</p> <p>67) 外国人留学生の受入れ及び外国人教員・研究者との交流を促進するため、専任スタッフ及び専任教員を拡充し、国際交流センター機能の強化を図る。</p> <p>68) 諸外国との共同研究や国際交流を推進し、我が国の科学技術イノベーションの創出を推進するとともに、我が国の科学技術交流の推進に貢献する。</p>	<p>の国際化を担う教員養成を見据えて、新型コロナウイルス感染症の影響により中国へ渡航できなくなった北京大学及び中国医科大学の日本人医学部生 29 名を受入れた。大学卒業後に日本の医師免許を取得する予定であり、将来は本学の教員となることが期待される。</p> <p>(医) 国際臨床医・研究医選抜（外国人選抜）において、外国人医学生を受け入れ、卒業後は本学医学部附属病院群で臨床実習を行うことを推奨している。</p> <p>(スポーツ健康) スポーツ分野で活躍する外国人教員を採用し、運動部指導のみならず、授業においてもその優れた技能や経験を学生に教授している。</p> <p>(国際教養) 国立がん研究センター外国人研究員を、グローバルヘルスサービス領域の専任講師として採用し、同領域の「目的別英語科目」を英語による授業を実施した。 学生定員増後の対応として外国人嘱託教員(英語)1名を増員採用し、学生の英語力向上、TOEFL スコアアップに向けた学生教育の充実を図った。</p> <p>(医) 順天堂国際医学教育塾にて、USMLE コース、TOEFL iBT・IELTS 対策コース、Clinical Skills Workshop を実施し、国際通用性の涵養を図っている。塾の各コースは、本学医学部学生、大学院生、臨床研修医、若手医師等、所属を問わず参加することができる。急増するインバウンドニーズへ対応の一環として、医学研究科修士課程では、認定医療通訳者を育成するヘルスコミュニケーションプログラムを開講している。</p> <p>(大学) 専任スタッフ及び専任教員については各学部から拡充を図り、各学部との連携のハブとして国際交流センター機能の強化を達成する。長期的な人材育成に係る課題として引き続き検討している。</p> <p>(大学) オンラインによる協定校との学術シンポジウムを8回開催した。また、海外の教育・研究・医療機関からの来訪を7件受入れた。これにより教育・研究面の国際化を推進した。</p> <p>(スポーツ健康) 連携協定を締結する北京体育大学とオンラインによる学術交流会を実施した。</p> <p>(医療看護) タイの協定校の来校時にワークショップとしての講演を実施した他、カナダのマギル大学から講師を招聘して交際交流講演会を実施した。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		<p>(保健医療) 国際連携の強化と今後の国際共同研究への発展を見据え、シンガポール最大の医療機関グループ SingHealth 及びシンガポール工科大学 (SIT) とともに、対面と Web のハイブリッド形式でシンポジウムを開催した。</p>

## VI 運営

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p><b>VI-1 組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標</b></p> <p><b>(1) 組織運営の改善に関する目標</b></p> <p>32) 世界的研究・教育拠点としての諸活動を支える基盤となる組織運営体制を強化するとともに、効果的な大学運営を推進する。</p> <p>33) 世界的研究・教育拠点としての諸活動を促進するために、優れた人材の確保と教職員の資質の向上を図る。</p>	<p><b>VI-1 組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための計画</b></p> <p><b>(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>69) 学長のリーダーシップの下、法人部門と各地区部門との連携機能を強化し、各地区における将来構想実現を促進するために全学的な教学マネジメント体制の強化を図る。</p> <p>70) 教員業績評価制度及び事務系職員業績等評価制度の改善・整備を継続的に行うとともに、公正・公平な評価の実施と評価結果の活用を図る。</p>	<p><b>VI-1 組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p><b>(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>(大学) 教学マネジメント指針の制定にともない、学長のリーダーシップの下、学位プログラム毎に教学マネジメント体制の確立を目指して、「大学評価支援室」「アドミッションセンター」、「情報戦略・IR推進室」が連携した教学マネジメント確立に向けた取り組みについて、内部質保証推進委員会により検証した。</p> <p>(医) 教員業績評価は昇任時及び任期更新時に実施しているが、令和4年度から主に基礎医学の教員を対象とした教員業績評価制度を導入した。令和4年11月の教授会にて任期更新基準を周知し、令和5年3月末で任期満了を迎える基礎系教員(24名)の評価を実施した。</p> <p>(スポーツ健康) 教員の業績評価を昇任時及び任期更新時に行っている。</p> <p>(医療看護) 教員の業績評価は、昇任時及び任期更新時に行っている。教員の昇任・採用時は「医療看護学部専任教員昇格・任用基準(内規)」に従い実施している。</p> <p>(保健看護) 教員業績評価制度及び事務系職員業績等評価制度の改善・整備を継続的に行うとともに、公正・公平な評価の実施と評価結果を活用している。</p> <p>(国際教養) 教員業績評価を任期更新時に実施しており、「教員在任期間における教育・研究活動等報告書」を整備し、任期更新審査時で活用している。</p> <p>(保健医療) 教員の業績評価は、昇任時及び任期更新時に行っている。</p> <p>(医療科学) 教員業績評価制度及び事務系職員業績等評価制度の改善・整備を継続的に行うとともに、公正・公平な評価に取り</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p><b>(2) 事務等の効率化・合理化に関する目標</b></p> <p>34) 大学経営を担うマネジメント人材の育成を推進するとともに、業務処理の簡素化・統一化、ICTの活用により、事務の効率化・合理化・標準化を一層推進する。</p> <p><b>VI-2 外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標</b></p> <p>35) 研究力強化のために、文部科学省科学研究費補助金をはじめ共同研究講座・寄付講座等の外部資金による研究費の増額を図る。</p>	<p><b>(2) 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>71) 優れた人材確保のために、人事制度改革を検討するとともに、全教職員が働きやすい魅力ある職場環境づくりに向けた働き方改革を推進し、組織運営の改善に資する知識・能力を向上させるための研修プログラムを開発し、実施する。</p> <p>72) 業務を継続的に見直し、共通業務の一括処理（処理方法の統一化）、効果的な外部委託、事務のIT化、契約業務の適正化を推進する。 また、事務職員に高い専門性を維持しつつ広い視野を持たせるため、国際通用性を涵養するための語学における資質向上を図るとともに、他大学との共同SD研修を通し、共通課題を検証し、問題に即応した課題解決を通じてコミュニケーション能力やマネジメント能力の高度化を図るPBL型研修の拡充を通じた人材育成を行うなど、事務職員の資質向上を図る。</p> <p><b>VI-2 外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>73) 外部資金等の獲得に向けた取組を強化するため、研究戦略推進センター研究戦略室を中心として、文部科学省科学研究費、AMEDの事業採択に向けて研究者の支援の強化を図る。企業等からの共同研究講座・寄付講座の拡充を図るために、異分野連携共同研究や開発型の大型共同研究の促進を目指す。また異分野連携推進のためのシーズを取りまとめ発信するICT環境を整備し、活用を促す。</p>	<p>組んでいる。</p> <p><b>(2) 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>(大学) 医師の働き方改革に対応するため、スマートフォンとビーコンシステムを活用した医師の勤務時間管理の運用を開始した。新任管理職を対象とする評価者・マネジメント研修を実施し、教育・指導や人事評価、リスク管理に関する知識・能力の向上を図った。また、コロナ禍で休止していた部課長研修会を再開し、管理職のマネジメントスキル、トラブル対処スキルの向上を図った。事務処理の効率化等を目的に、高齢者医療センターの給与・社保業務を本部に集約し、効率化と標準化を図った。（練馬病院、越谷病院、高齢者医療センター3病院集約が完了）</p> <p>(大学) 本学のDX化推進として、電子稟議・承認システム（Agileworks）の利用を推進しており、人事部、総務部、本郷地区情報センターを中心に運用移行し、ペーパーレス化・業務効率化の効果が得られているため、更なる全学的な利活用を推進する。 感染対策に配慮し、他大学との共同研修や階層別研修、本学語学教員による語学研修を実施し、職員の問題解決能力向上及び語学力向上を図った。 (スポーツ健康) 職員の業務について継続的に見直しを行っている。総務課が中心となり、Agile Works や Google Workspace などを積極的に活用しDXを推進した。</p> <p><b>VI-2 外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>(大学) 外部資金獲得に向け、研究者と支援部門が連携して取り組んだ結果、寄付講座・共同研究等講座数は令和4年度末時点で、59講座（寄付講座13講座、共同研究講座43講座、産学協同研究講座3講座）が設置された。文部科学省科研費について729件1,440,320千円と前年度より増加し、件数・金額ともに私学第3位になった。 革新的医療技術開発研究センターにおいて、研究シーズの社会実装や産学連携のマッチングをGAUDIプログラムにより促進した。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>36) 無駄な経費を抑制し、一層のコスト意識の徹底を図る。</p> <p>37) 運用資金を含めた資産の効率的な運用及び管理体制の強化を図る。</p>	<p>74) 外部資金の獲得について公募情報の積極的な提供及び採択に向けての研究者支援体制を強化する。</p> <p>75) 大型の競争的資金を積極的に申請するとともに、研究費管理システムのバージョンアップ等管理の強化に努める。</p> <p>76) 一層の情報公開を進めることによりコスト意識を高め、財務体質の強化、外部格付（R&amp;I「AA」）の維持・向上に努める。また研究基盤センターの管理運営体制の見直し及び研究経費の効率的運用を図るとともに、施設・設備の更なる共同利用を推進し、より一層の効率化を実現する。</p> <p>77) 資金運用委員会の検討等を踏まえて運用資金を含めた資産の効率的な運用を進める。</p>	<p>(大学) 研究者向けの学内広報（主にメール配信）により公募情報の積極的な提供に取り組んだ。応募申請の際にURAによる申請書のレビュー対応を強化した。</p> <p>(大学) 研究者が大型競争的資金に挑戦しやすい環境を整えるため、大型研究資金を目指す研究者向けのプロジェクト研究費の配分を昨年度に引き続き実施した。研究シーズの社会実装を目指す研究者支援を多様化するため、実用化研究及びスタートアップ支援制度を構築した。</p> <p>(法人) 決算状況についてはホームページに公開しているほか、学内に対しても大学運営連絡協議会や各学部教授会において財務状況報告を行う等、情報公開を積極的に進め、コスト意識を高めた。外部格付（R&amp;I）を令和5年3月に更新し「AA」を維持、引き続き「安定的」との評価を得た。</p> <p>(法人) 半期ごとに資金運用委員会を開催、運用資産のモニタリングを通じて効率的な運用を検証した。外部委員として新しいメンバーに交代し、内外の金融・経済情勢のレクチャーを受けて運用銘柄選定の参考とする等、資産の質の維持を図った。</p>
<p><b>VI-3 評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標</b></p> <p>38) 自己点検・評価及び第三者評価機関等による評価を実施するとともに、その評価結果に基づき、内部質保証システムにより教育研究活動・大学運営の改善に資する仕組の強化を図る。</p>	<p><b>VI-3 評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>78) 自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップを行うなど、内部質保証システムの機能を高め、着実な教育研究活動・大学運営の改善を効果的に推進する。教育の内部質保証にあっては、教育の状況・活動の実態を示すデータを適切に収集・分析して教育現場にフィードバックする教学IR体制の整備を図る。</p>	<p><b>VI-3 評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>(大学) 第16次(令和3年度)自己点検・評価を行い、課題を把握しており、令和5年度に令和4年度中に対応したことを検証する。教育の質保証に当たって、内部質保証推進委員会にて、ルーブリック評価で先行する学部の事例共有を図った。また成績評価が各科目の到達目標の達成度評価となるように、評価毎の全学統一の評価基準を定めた。カリキュラムマップ、カリキュラムツリーについて、良好事例を参考に、改善に向けて検討を進めることを確認した。令和5年度にフォローアップを行う予定である。教学IR体制の整備を図るために関連規則の見直しと制定を令和5年度早々に行う。4月には教学IRデータ取扱要領を制定し、以降、情報戦略・IR推進室規程改正、教学マネジメント委員会管理運営規則などの制定を行う予定である。</p> <p>(医) 自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップ項目については教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュ</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>39) 世界的研究・教育拠点としての順天堂大学における教育・研究・診療に関する取組や国内外の他大学との連携交流に関する諸活動を情報公開し、積極的に国内外に情報発信する。</p>	<p>79) 大学の教育・研究・診療活動の状況を恒常的かつ継続的に国内外に発信するために、学内外の情報収集や発信等を効果的に遂行する体制や手法を強化し、マスコミ等に対するプレスリリースを拡充する。</p> <p>80) 順天堂ブランドとなる教育・研究・診療活動を可視化し、大学ブランドイメージの発信及び支援層の拡大を目指す。正確かつ迅速な情報発信にとどまらず、他大学にはない個性や魅力に満ちた諸活動を Web サイトなどの様々な広報媒体により</p>	<p>ラム評価委員会が中心となって改善を図っている。</p> <p>(スポーツ健康) 自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップを行っている。教授会を中心に各委員会が連携して、教育の状況・活動の実態を示すデータを適切に収集・分析して教育現場の改善に生かしている。</p> <p>(医療看護) 自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップを行っている。教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会が中心となり、教育の状況・活動の実態を示すデータを適切に収集・分析して教育現場にフィードバックしている。また、教務システムを通して学生の学修ポートフォリオを作成し、成績情報をもとに学修成果の修得状況を”学修度”として可視化(グラフ化)する環境を整えた。</p> <p>(保健看護) 令和4年度から大学の中期計画を踏まえた本学部独自の年度計画を策定している。自己点検・評価を通じて把握した課題を情報共有し、その成果については検証を行い、各委員会活動において教育研究活動・大学運営の改善に向けた対応を検討している。</p> <p>(国際教養) 自己点検・評価を通じて把握した課題、内部質保証推進委員会からの指摘は学部内で共有し、関係各委員会で検討・対応することにより、学部教育活動の改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>(保健医療) 自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップについて、教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会が中心となり、改善を図っている。</p> <p>(医療科学) 自己点検・評価を通じて把握した課題、内部質保証推進委員会からの指摘を学部内で共有し、関係各委員会で検討・対応することにより、学部教育活動の改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>(大学) J U R Aからの定期的な論文情報提供を通じ、医学系研究成果を中心とするプレスリリースの拡充を図ると共に、法人広報委員会を通じて各部門の広報委員会の活動を活性化させ、研究成果以外の特長的な取り組みのプレスリリース、オウンドメディア、SNS等での発信強化を図った。</p> <p>(大学) オウンドメディア「GOOD HEALTH Journal」をリニューアル公開し、「すべての人に健康を」をテーマに、さまざまな情報を発信し、本学の活動に対するより深い理解の促進と健康総合大学・大学院大学としてのブランディング強化を図った。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p><b>VI-4 施設設備の整備・活用等に関する目標</b></p> <p>40) 世界的研究・教育・診療拠点にふさわしいキャンパス・附属病院の環境を計画的に整備する。</p>	<p>国内外に紹介するとともに、外部の多様なメディアなど社会とのネットワークを最大限活用し、情報の浸透・拡散を促進する。</p> <p><b>VI-4 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための計画</b></p> <p>81) 大学キャンパス・ホスピタル再編事業を踏まえ、各キャンパス機能の再整備と推進を図り、教育研究環境の改善・強化を推進する。</p>	<p>順天堂 YouTube チャンネルを活用した広報展開も進め、昨年度は国内大学では上位に位置する登録者数 1 万人を突破。「自宅でできる運動プログラム」「やさしい日本語」など、健康総合大学・大学院大学の特長を活かした動画を数多く配信している。</p> <p>広報誌「順天堂だより」のデジタルパンフ化、グローバル広報誌「Juntendo News」（英語版・中国語版）の新規発行を通じた定期的な情報発信を実施。</p> <p><b>VI-4 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための実施状況</b></p> <p>(大学) 国際化をより一層進めるため、本郷・お茶の水キャンパスの近傍に留学生寮を新築予定。令和 6 年 7 月竣工予定。新型コロナウイルス感染症対応として窓開け換気等、換気量確保のための空調負荷の増加状況は前年と変わらない。一方で対面授業が増加傾向の為、CO2 濃度計を導入、教育環境の状況把握に継続して努めている。</p> <p>(スポーツ健康) 学内診療所を内包した新体育館・プールの新築工事が進行しており令和 5 年 9 月下旬に供用を開始する予定。また 2 号館（講義棟）の改修工事を順次実施しており、健康総合大学院大学に相応しい教育環境の整備を進めている。</p> <p>(医療看護) 11 教室として使用していた教室を多目的に使えるスチューデントコモンズへと変更した。浦安・日の出キャンパスに体育館が完成したことから令和 4 年 9 月に浦安キャンパスの体育館は、大学院シミュレーション教育研究センターとラーニングコモンズに変更し教育環境の整備を行った。また環境整備の一環としてエントランスホールをリニューアルした</p> <p>(保健看護) 令和 4 年度から 130 名への定員増を行った。さらに令和 6 年 4 月 160 名への定員増に向けて校舎の新築工事を令和 5 年 2 月に工事着手した。新校舎では学生が自ら学ぶ環境としてラーニングコモンズ、屋内運動スペースを整備するほか、併設する多目的スペースでは講習など幅広い活用を予定しています。竣工予定は令和 6 年 3 月。</p> <p>(浦安・日の出キャンパス)</p> <p>浦安・日の出キャンパスⅡ期工事が令和 4 年 4 月に工事着手し順調に施工を進めている。竣工予定は令和 5 年 7 月。Ⅱ期校舎（2 号館）は健康データサイエンス学部が主に使用するほか、全学部が使用するラーニングコモンズや学術メディアセンターなどを整備予定。また引き続きⅢ期薬学部校舎建設の準備を行</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>41) 地球温暖化等の環境に配慮した取組を進めるとともに、施設設備の適切な維持管理と有効活用を推進する。</p>	<p>82) 医療の質の向上及び安心で安全な医療の提供を推進するため附属病院の施設設備の充実を図る。</p>	<p>っている。</p> <p>(本院) 1号館の昇降機については平成30年から既存不適格を解消するための改修工事を8年計画で実施しており、令和4年度中には2基の改修を終え、令和5年3月末時点で、エレベーターについては全20基のうち11基の耐震改修工事を完了した。エスカレーター2基を含め令和6年度までに全昇降機の改修が完了する予定。1号館手術・中材部門の全面改修工事に令和3年4月に着手した。本工事は①設備老朽化対策、②ケースカート方式導入による業務効率化、③最新術式対応を目的とした全13ステップ(約54か月工期)の工事であり、令和5年3月末時点で46%の進捗となっている。</p> <p>(静岡) 医療の質向上及び患者利便性向上を図るべく行われた次の活動に必要な設備を整備している。①TAVI(経カテーテル弁置換術)開始、②小児外科開設、③総合再診外来開設、④歯科・歯科口腔外科開設。</p> <p>静岡病院増改築計画は現在H棟Ⅱ期棟の建設工事を推進中で、令和5年3月末時点でのH棟Ⅱ期棟の進捗率は13.1%、全体工程の70.1%に到達した。H棟Ⅱ期棟は令和6年4月竣工予定、その後既存棟改修Ⅱ期工事に着手予定となっている。</p> <p>(浦安) 令和3年12月より外来Ⅰ期改修工事を開始し、同4年度には整形外科、小児・小児外科外来、呼内・呼外科、ペインクリニック、産婦人科の各外来、身体機能検査センター、院内レストラン・コンビニ、患者休憩コーナーの工事が完了した。また老朽化していた1号館手術室の空調設備の更新工事を実施した。令和4年4月より環境活動推進会議を発足し、省エネやペーパーレス化など積極的に取り組み、同年11月には千葉県CO2CO2(コツコツ)スマート宣言事業所プレミアム・コースに登録することができた。</p> <p>(越谷) 一般病床200床開設の再編計画について、老朽化した昭和43年竣工の2号館(病棟)移転を含めた新棟建設の基本計画見直しを行い、令和8年の開設に向け準備を進めている。</p> <p>(高齢者) 省エネ・CO2削減のため、熱源ポンプINV制御化工事及び病棟・外来の照明LED化工事を実施した。東京都による大規模な改修工事として、SNW受変電設備特高負荷開閉器(ガスLBS)修繕工事(令和5年1月)及び自動火災報知設備更新工事(令和5年2月)を実施した。令和5年度に冷温水ポンプ更新工事を実施するため、令和4年度に設計作業を実施した。医療機器はCT装置、内視鏡カメラシステム、生化学自動</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>83) エネルギーの効率的な利用と省資源化を強化する。</p> <p>84) 施設設備を適切に維持管理し、効率的に運用する。</p> <p>85) 万一の大規模災害時に備えるため、事業継続計画（BCP）に則り、施設設備の整備を推進する。</p>	<p>分析装置、過酸化水素滅菌機の代替購入を行った。</p> <p>(練馬) 令和4年度再編事業工事完了後、各種診療機能拡充の運営は順調に経過しており、今期、ロボット支援手術（da Vinci）の術式拡大とともに、低侵襲手術ニーズの増加のため、2台目を導入し複数体制とした。老朽化したマンモグラフィを低被ばく・検査時間短縮を目的に更新し、被験者の増加に対応している。省エネ・CO2排出量の削減にLED交換を進めている。</p> <p>(大学) 各地区ともCO2削減ロードマップを作成し、省資源化に努めている。本郷ではCNL（カーボンニュートラルLNG）の導入に加え、新たにCO2排出量がないゼロエミッション電力の契約を締結した。</p> <p>(スポーツ健康) 東京ガスのPPA型太陽光発電システムの導入に向け具体的な設置計画の立案を進めている。同システムの導入により、キャンパスの消費電力のほぼ全量を再生可能エネルギーで賄う計画としている。また各施設の空調設備の更新を順次実施しており、高効率の設備を採用することで省エネルギー化を進めた。</p> <p>(医療科学) 千葉県の地球温暖化のCO2削減スマート宣言事業所に参画してエネルギーの効率的な利用と省資源化に取り組んでいる。</p> <p>(大学) 設備の適切な維持管理とエネルギーの効率的な運用については各キャンパス鋭意改善に努めている。</p> <p>(スポーツ健康) 施設設備管理業務の仕様の精査/見直しを実施し、これまでスポット的に実施していたメンテナンスを定期メンテナンスに変更することで、設備の長期運用を図るとともに、突発的な故障やトラブルの軽減に繋げた。</p> <p>(大学) 継続的に各地区のBCP計画に則り、必要な施設整備、外部との協力協定の提案及び締結を進めている。センチュリータワー1階ロビー（災害対策本部設置予定場所）の耐震工事が完了し、本郷地区の非構造部材の耐震化が完了した。</p> <p>(スポーツ健康) BCPの更新/充実化を進めており、災害発生時の初動訓練などを計画的に実施している。来年度中の大地震を想定した実働型の総合防災訓練を計画している。備蓄品の見直しや追加も計画的に実施しており、防災・減災に向けたキャンパスの強靱化を進めた。</p>



中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p><b>VI-5 法令遵守に関する目標</b>            ○法令順守に関する目標            42) 研究不正及び個人情報漏洩防止を含め法令遵守に係る取組を強化するとともに、情報セキュリティ対策に取り組む。</p>	<p><b>VI-5 法令遵守に関する目標を達成するための計画</b>            ○法令順守に関する計画            86) 各部門のコンプライアンス推進部門責任者、副責任者は、研究倫理の推進及び不正行為防止を図るため、部門内の研究活動及び研究費の運営・管理に関わる教職員等に対してコンプライアンス教育の実施、受講状況の管理監督を行い、統括管理責任者に報告する。</p> <p>87) 法令順守のための助言・支援を担当するほか、各種プロジェクト、各種契約における大学の正当な利益を保護するための助言・支援を専門的な見地から担当する法務スタッフの充実・整備を図る。</p> <p>○研究不正に対する防止策に関する計画            88) 研究活動に係る不正行為の防止を図るため、研究倫理教育部</p>	<p>(医療看護) 浦安市職員と年に1回災害時に本キャンパスが避難所となったときの対応について協議している。キャンパス内の自衛消防組織を設置している。            (医療科学) 浦安市より一般避難所の指定を受けた。浦安市防災無線の設置と浦安市職員と災害時に本キャンパスが避難所となったときの対応について協議している。キャンパス内の自衛消防組織も設置している。</p> <p><b>VI-5 法令遵守に関する目標を達成するための実施状況</b>            ○法令順守に関する実施状況            (法人) 「日本私立大学連盟 私立大学ガバナンス・コード【第1版】」の制定に伴い、(学) 順天堂ガバナンス・コードを制定し、私立大学連盟ホームページ及び本学ホームページ(情報公開ページ)で公表した。内部監査室は、監事及び会計監査人と連携しつつ、公的研究費等の運営・管理、並びに5キャンパス(7学部・3研究科)・6附属病院・法人本部を対象とする法令・学内ルールの順守状況及び日常業務の効率的かつ適正な執行について内部監査を実施している。改正公益通報者保護法(令和4年6月1日施行)に対応するように「法令順守のためのヘルプラインに関する取扱要領」を改正した(令和5年2月1日)。            (大学) 部門内の研究活動及び研究費の運営・管理に関わる教職員等に対してコンプライアンス教育としてAPRIN e-learning、JSPS eL CoREの受講を義務付け(5年毎)、Web上で受講を確認している(令和4年度の競争的研究費申請者の受講率は100%)。            学部学生に対しては講義の中で研究倫理教育の講義を実施している。大学院生(修士・博士)は、講義及びeラーニングにより研究者と同様にすべての大学院生に受講を義務付けている。受講状況は、文部科学省への報告事項のため最高管理責任者及び統括管理責任者へ報告している。</p> <p>(大学) 令和2年4月より弁護士資格を有する職員を任用し、人事・研究支援等の課題を中心に助言を受けている。</p> <p>○研究不正に対する防止策に関する実施状況            (大学) 順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領に則り、研究</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>門責任者は、教職員・学生等に対する公正な研究活動を推進するため、研究倫理の推進に関する定期的な教育（e-Learning 等）、研究分野及び部門等の特性に応じた研究資料等の保存方法の策定及び管理に関する教育、研究者等に対する研究資料等の作成及び保存に関する教育を行う。</p> <p>○情報セキュリティに関する計画</p> <p>89) 情報セキュリティレベルの向上と教職員・学生等の情報に係る法令遵守の意識の向上と徹底を図るために、組織的に運用・管理体制を確立するための体制整備、認証基盤の充実、情報セキュリティ・ポリシーの定期的な見直し、セキュリテ</p>	<p>活動に携わる教職員に対して研究倫理教育 APRIN e-learning プログラム（eAPRIN）の受講を義務付けるとともに、学内の研究者、研究支援者向けに研究不正防止を趣旨としたセミナーを開催した。本学における公正な研究活動を推進するため「順天堂大学における研究倫理推進計画（2022）」を更新し、研究活動に係る不正行為の防止及び不正行為が生じた場合の措置について周知した</p> <p>(医) 順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領に則り、医学部学生、医学研究科大学院生に対して、研究倫理教育 APRIN e-learning プログラム（eAPRIN）の受講を課している。医学研究科にて研究ガイドラインを策定し、大学院生に配布している。</p> <p>(スポーツ健康) 教職員・大学院生の研究倫理に関する教育を推進するため、研究倫理教育プログラム（独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の「研究倫理 e ラーニングコース」又は一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）の「e ラーニングプログラム」のいずれか）の受講と修了を義務付けている。</p> <p>(医療看護) APRIN e-learning プログラムを導入しており、教職員・学生においては倫理審査申請にあたり事前の受講を必須とする等、研究倫理に関する教育を推進している。</p> <p>(保健看護) 定期的に研究倫理の APRIN e-Learning を行うよう、研究等倫理委員会から教員への周知を徹底している。毎年倫理講習会を開催し全教員が参加している。</p> <p>(国際教養) 教職員に対しては研究倫理教育 APRIN e-learning プログラム（eAPRIN）の受講を義務付けており、学生に対しては1年次必修科目「文章表現法/論文・レポートの書き方」の中で、学部独自教材「論文レポートの書き方_マニュアル」と教科書「アカデミックスキルズ」を用いて、研究の方法、引用方法、剽窃行為等の研究倫理教育を実施している。</p> <p>(保健医療) 全学生に対し、必修科目内にて研究倫理教育 APRIN e-learning プログラム（eAPRIN）の受講を課している。</p> <p>(医療科学) 定期的に研究倫理の e-Learning を行うよう、研究等倫理委員会から教職員への周知の徹底と、FD推進委員会の指導でFD研修を実施している。</p> <p>○情報セキュリティに関する実施状況</p> <p>(大学) 本郷・お茶の水キャンパス学部生に対してセキュリティ講習を実施している。サイバー保険を継続し、各種セキュリティサービス（FW、MDM、DNSセキュリティ、EDR等）を契約している。セキュリティ管理・リスク評価体制整備</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>ィ対策、学内構成員に対する講習会等を行う。</p>	<p>(CSIRT) のため、セキュリティコンサルティング契約を行い業者にヒアリングシートベースでセキュリティアセスメントを実施した。令和4年2月のJ C I 更新において医療情報システムのセキュリティ監査が未実施であることから Not-Met となっており年度ごとに実施が必要である。CSIRT 組織として JIN-CSIRT を設置し、今後教職員へのセキュリティ講習、情報セキュリティ・ポリシーを定期的実施するよう計画立案を行う。</p>